

令和 6 年 度

教 育 委 員 会 定 例 会 （ 7 月 ） 議 事 録

四 條 畷 市 教 育 委 員 会

1 開催日時・場所

令和6年7月25日（木）10時00分から15時20分まで

四條畷市役所 東別館2階 201会議室

2 出席委員

教育長職務代理者	山本 博資
委員	佃 千春
委員	河田 文
委員	尾崎 靖二

3 事務局出席者

学校教育部長	阪本 武郎	社会教育部長	藤岡 靖幸
学校教育部次長兼		社会教育部次長兼スポーツ・青少年課長	神本 かおり
学校教育課長	花岡 純	社会教育部副参事	賀藤 久道
教育総務課長	古市 靖之	文化・公民館振興課長兼公民館長	安田 美有希
教育総務課長代理兼主 任	木邨 勇貴	図書館長兼主任兼田原図書館主任	田中 学
教育支援センター長兼	金子 摂	文化財課長	西岡 充
学校教育課指導担当課長			
学校給食センター所長	谷口 直人		

4 その他出席者 教科書選定委員会委員長 鉄 寿広

5 議事録作成者 教育総務課 織田 紗樹

6 付議案件

議案 第16号 令和7年度使用四條畷市立小学校教科用図書の採択について

議案 第17号 令和7年度使用四條畷市立中学校教科用図書の採択について

報告 第12号 令和6年度教育委員会事務局職員人事について

山本教育長職務代理者	現在、教育長が不在となっておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条第 2 項に基づき私が会議を主宰することといたします。 只今から 7 月の教育委員会定例会を開催します。会議の成立状況について、事務局から説明をお願いします。
古市教育総務課長	本日、尾崎委員が議案第 16 号及び 17 号について、教科用図書の出版社の編集業務に携わっていることから地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 6 項の規定に基づき議事に参与できないため、本議案の終了後から参加される旨を確認しています。よって現時点で教育長職務代理者及び教育委員おふたりの出席となり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 3 項の規定に基づき、会議が成立していることを報告いたします。
山本教育長職務代理者	それでは、四條畷市教育委員会会議規則第 5 条第 2 号の規定に基づき議事録署名者の指名を行います。 本日の議事録署名者は、河田委員にお願いいたします。 それでは議事に入ります。 議案第 16 号、令和 7 年度使用四條畷市立小学校教科用図書の採択についてを議題といたします。 事務局から本件の内容説明を願います。
金子教育支援センター長兼学校教育課指導担当課長	議案第 16 号 令和 7 年度使用四條畷市立小学校教科用図書の採択について、説明申し上げます。 令和 7 年度に四條畷市立小学校で使用する教科用図書の採択につきまして、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条（同一教科用図書を採択する期間）に「義務教育諸学校において使用する教科用図書については、政令で定めるところにより、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとする。」とあります。政令で定める期間とは、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第 15 条（同一教科用図書を採択する期間）に「法第 14 条の規定により種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、学校教育法附則第 9 条第 1 項に規定する教科用図書を採択する場合を除き、四年とする。」とあることから、小学校の教科書については、昨年度採択された教科用図書を継続して使用するため本案を提案するものです。なお、本年度使用しております種目ごとの教科用図書は、別紙に記載のとおりでございます。以上、ご審議のほど、よろしくお願いいたします。
山本教育長職務代理者	このことについて何かご意見等はございませんでしょうか。

山本教育長職務代理者	それではここでお諮りします。令和7年度に、四條畷市立小学校で使用する教科用図書の採択につきましては、令和5年度に採択された教科用図書と同一のものを採択することとしてよろしいですか。 (「異議なし」の声)
山本教育長職務代理者	異議がないようですので、議案第16号については原案のとおり可決することに決しました。 続いて、議案第17号 令和7年度使用四條畷市立中学校教科用図書の採択についてを議題といたします。 事務局から本件の内容説明をお願いします。
金子教育支援センター長兼学校教育課指導担当課長	議案第17号 令和7年度使用四條畷市立中学校教科用図書の採択について、説明申し上げます。 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定により令和7年度使用四條畷市立中学校教科用図書の採択を求めるものでございます。 提案理由といたしまして、令和7年度に四條畷市立中学校で使用する教科用図書につきましては、同一の教科用図書を採択する期間が令和7年3月31日をもって満了するため、令和7年度に使用する教科書を「令和7年度使用教科用図書見本本一覧（中学校）」の中から、種目ごとに1種類の教科用図書を採択いただくために本案を提案するものです。 次に、これまでの経過の概要を説明申し上げます。令和7年度使用教科書採択事務の経過報告をご覧ください。 教科書採択に関しまして、教育委員会定例会及び選定委員会、調査員会、見本本の移動展示及び教科書センターにおける法定外展示、法定展示等について、現在までの経過等をお示しさせていただいております。 選定委員会におきましては、慎重な調査研究と審議を重ねられ、その結果をまとめて、令和6年7月18日付で答申がなされております。本市中学校使用教科用図書全16種目を決定するため、よろしくご審議のうえ、ご採択賜りますようお願い申し上げます。 引き続き、答申の趣旨等につきましては、選定委員会委員長より説明させていただきますよろしいでしょうか。
山本教育長職務代理者	はい、選定委員長、どうぞ。
鉄選定委員長	選定委員会委員長の四條畷市立田原中学校校長の鉄でございます。 答申の趣旨について説明いたします。

(鉄選定委員長)	四條畷市立学校教科用図書選定委員会（以下、「選定委員会」という。）は、令和6年5月22日に、四條畷市教育委員会から、令和7年度使用四條畷市立中学校教科用図書の採択に係る諮問を受けました。 選定委員会は、令和7年度に四條畷市立中学校で使用する教科書について調査員会の設置を決定し、各中学校長より推薦された各種目3名の調査員に、教科書見本の調査研究を依頼しました。調査員会では、班長を中心に、約1ヶ月間をかけて調査研究を深め、調査事項報告書が作成され、結果については、選定委員長及び委員、教育委員会事務局が、班長より調査事項報告書をもとに、調査研究の結果について口頭で報告を受けました。 また、市内の全中学校において、全ての教科書見本を展示し、学校ごとにまとめられた学校意見書についても、答申の参考としております。なお、広く市民のみなさまからのご意見も参考とさせていただくため、令和6年6月10日から6月13日までの法定外展示、6月14日から7月3日までの法定展示でいただきました意見につきましても、答申の参考といたしました。 選定委員会におきましては、教科用図書見本の閲覧と調査研究を行い、大阪府教育委員会の令和7年度使用教科用図書選定資料及び各教科書発行者の教科書内容解説書の研究を行いました。 以上の調査研究や調査事項報告書、学校意見書等を参考に、四條畷市教育振興基本計画の基本理念であります「みんなの学びが叶うまち～生涯 学び夢 挑戦～」に基づき、本市の子どもたちが、日々の学習に目標を持ち、意欲的に学び続け、達成感、成就感を味わいながら学習する姿を想像しつつ、学習指導要領でも示されております主体的な学び、課題解決型の学び、探究的な学びの観点から、本市生徒が令和7年度に使用するに相応しい中学校用教科書について、別紙のとおり、総合的に出版社ごとに特徴をとりまとめ、令和6年7月18日に答申させていただきました。
山本教育長職務代理者	ありがとうございました。ただいま説明のありました答申の趣旨についてご質問等はございませんか。
山本教育長職務代理者	なしと認めますので、次に進めさせていただきます。 あらかじめ、採択の進め方についてお諮りいたします。 まずは令和7年度使用四條畷市立中学校教科用図書について、国語から道徳までの16種目でございますが、答申をもとに国語より順に、1種目ずつ審議、採択と進めるということでいかがでしょうか。 （ 「異議なし」 の声 ）
山本教育長職務代理者	次に、審議の手順についてお諮りいたします。 委員の皆様におかれましては、この間、事前に全社の教科書を実際にみて

(山本教育長職務代理者)	いただき調査いただいたところです。これからの審議におきましては、先ほど選定委員長から報告がありました答申をもとに、各委員が調査された意見を含めて最終的に1社を決定していくという方法で検討してまいりたいと思います。
山本教育長職務代理者	(「異議なし」 の声) 異議なしとのお声がありましたので、そのように進めさせていただきます。また、16種目が終了いたしました後で、私より採択についての最終確認をさせていただきます。 では、国語から審議に入ります。答申の3ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	まず東京書籍につきましては、第1学年143、第2学年142、第3学年130、計415箇所 of 二次元コード資料が豊富にあり工夫がみられます。 次に、三省堂につきましては、文章を正確に読み解き、深く読み味わうための技やこつを3年間で22種類習得できる「読み方を学ぼう」が示されている工夫がみられます。 教育出版につきましては、「学びのチャレンジ」で文字以外の情報と文章を関連付けて考えるような、全国学力・学習状況調査やPISA調査などが意識された問題が掲載されている特徴がございます。 最後に、光村図書出版につきましては、本編と資料編の間にブックインブック形式の「語彙ブック」が設けられ、語彙を増やしたり、思考や感情を的確に言語化したりする際に活用できる特徴がございます。 以上、簡単ではございますが説明とさせていただきます。
山本教育長職務代理者	説明いただきましたとおり、国語は4社です。このことについて、ご意見をいただきたいと思います。
佃委員	各社とも生徒にとって興味関心のある題材を扱われ、多様な学習活動を効果的に行えるよう、言語活動の場面が設定されていました。 まず東京書籍ですけれども、領域別教材一覧は、話す、聞く、書く、読むの領域ごとに、その教材でどういった力がつくのかがわかりやすく示されていて、見通しをもつことができるなと思いました。また、各学年に未来への扉、「未来を考えるための九つのテーマ」が設けられていて、3領域の学習で認識を深めることができるのはとても良いなと思いました。 三省堂につきましては、領域別教材一覧には、教材ごとにつけたい力がわかりやすく示されています。また、「思考の方法」では、順序だてるから仮定するまで具体的に考えるその流れをちゃんと文字に可視化することで考えが

(佃委員)	まとめやすくなるなど。それが示されていてわかりやすいし、色々な時に使えるのではないかと思います。 教育出版では、言葉の地図では、目標、学びナビ、本文、みちしるべ、ふり返りで学び方をわかりやすく示し、見通しをもって学べるようになっていきます。また、教材ごとにつけたい力を示し、SDGsとの関連も記載しているのがとても良いと思いました。四季のたよりでは、四季の短歌や俳句で季節を豊かに感じることができる工夫がされていました。 光村図書出版では、学習の見通しをもとうでは、領域別につけたい力が網羅されていることがわかり、全体像をつかみやすいと思いました。学びへの扉で学習の流れが示されて、資料編の学びのカギでは学んだことを確認するヒントがあり、巻末にふり返れるように一覧となっていて、いつでも使えるのが良いなと思いました。また、それらをQRコンテンツで深めることができる工夫がされていると思いました。
河田委員	東京書籍については、巻頭の未来への扉で、「未来を考えるための九つのテーマ」が設定され、それぞれのテーマについて認識を深め様々な視点から未来について考えられる構成になっていました。巻末の思考のヒントでは、情報収集・整理・分析をする際の図や表の活用方法が一覧で掲載されていて、思考力の向上に繋がる工夫がなされていると思います。また、QRコンテンツが豊富で子どもたちの学習意欲や関心を高め、発展的な学習に繋がると思いました。 三省堂については、読み方を学ぼうでは、文章を正確に読み解き、深く読み味わうための技やこつの習得方法が表や図で示され、他の教科や他の領域の学習にも活用できる工夫がされていました。また、対話を中心とした協働的な学びとしてグループディスカッションを取り入れ話し合いの方法を学べる点や、お互いの考えを深められる対話を促す活動が本文の随所に取り入れられている点が良いと思いました。 教育出版については、巻頭言葉の地図は見開きで教科書の学び方がわかるようになっていて、子どもたち自身が、どのように学習を進めていくのか把握できる点が良いと思います。また、各教材にある学びナビ、目標、ヒントは何をどう学ぶのかわかりやすく示されていて、みちしるべ、ふり返りで学びを深められる構成になっていました。巻末に、表現に役立つ言葉のページがあり、意見を述べる活動や議論・討論をする活動など全部で6項目の活動に使える構文が掲載されていました。 最後に光村図書出版です。学びへの扉で学習の流れが把握でき、学びのカギで学習する際の観点がわかる構成になっています。語彙ブックを教科書より少し小さいサイズで中綴じしている点が特徴で、その内容としては表す言葉を描写、言動、思考の3つのグループにわけ、言葉と用例が一目で見えるかたちで掲載していて、子どもたちが見たいときに簡単に見ることができる

(河田委員)	点が良いと思いました。
山本教育長職務代理者	私も4社を見させていただきました。いずれも言語活動を通して言葉による見方・考え方というのを適切に子どもたちに習得させようという教科書かなと思っています。本市は小学校から特に読書活動に力を入れてきましたので、そういう点を中心に見させていただきました。 東京書籍は、言葉の力というのをすごく意識している教科書だなと思っています。また、先ほど佃委員もふれられましたように、「未来を考えるための九つのテーマ」ということで、3領域の学びについて非常に工夫をされていると感じました。 三省堂については、対話を中心とした協働的な学びを考えておられる教科書で、それによって子どもたちの見方やあるいは自分の考えを深めていくという趣旨かなと思っています。特に「思考の方法」で各学年で20ページくらい取り上げていただいて、読み方を学ぼうというかたちで漢字も身に着けるというような考えがあつてすごく良かったかなと思います。ただちょっと資料等が非常に豊富で、十分に読み込める力が本市の子どもたちにはあるかなと少し気になったところです。 教育出版につきましては、学びナビ、みちしるべという、先ほど河田委員も仰られていたのですが、そういうかたちで自ら学習を積み上げていくことができるという点では非常によく考えられた教科書だと思いますし、広がる本の世界ということで、関連図書の紹介等があり、この部分については本市の子どもたちは興味を持てるかなと思っています。また現代的な課題がすごく多いというところも、これはどこの会社も現代的な課題をものすごく取り上げていただいているのですが、こういうところも特に意識をされていると思いました。ただ、四條畷の子どもたちには本を読んだ感動ということを中心に考えたいと思いますので、なかなか説明を読んで感動が伝わるかなと感じました。特に初恋を取り上げているところでは、文語体の定型詩というかたちで子どもたちに還元させるという部分があるのですが、その部分が学びナビの方で説明されてしまっているというところで、なかなか感動が伝わりにくいという部分もあるかなと思っております。 最後に、光村図書出版ですが、言葉の力というのを中心に考えられて、特に小中の連携を意識されているのが良かったと思います。先ほど委員長からもありましたように、語彙力、思考力、表現力が高まるという語彙ブックを作成されているのは非常に特徴的だったと思います。
山本教育長職務代理者	それでは4社とも答申にありますように聞く、書く、読むの3領域のバランスが良く扱われております。子どもたちの言葉の力を高めるのに適した教科書だと思います。先ほど言いましたように、本市は小学校から読書活動の充実に取り組んできていて、小中連携という観点も重要な要素になっていま

(山本教育長職務代理者)	す。また、社会生活を意識した言語活動の工夫、あるいは個別最適な学びや問題解決力が身につく工夫などの観点から、東京書籍か光村図書出版が本市には相応しいのではないかと思います。いかがでしょうか。
佃委員	それでは、2社についてさらに議論し、本市により相応しい教科書を選定したいと思います。2社に関してご意見がありましたらお願いいたします。 東京書籍ですが、先ほど職務代理も感動というお話をされましたが、巻頭の詩とか扉の詩や短歌などイメージを膨らませてその世界を楽しむ工夫がされているのが感動に繋がる活動でもあるし、そういう工夫がとても良いなと思いました。 そして光村図書出版ですが、魅力的な提案をしようという教材では、プレゼンテーションの進め方について、こつなどわかりやすく示し次に関連するページが示されていて、中学生にとってはかなり使える学びとなっている。この工夫がとても良いなと思いました。また、古典で扇の間と平家物語では見開きの資料でしっかりと学び、さらに古文と日本語訳と口語訳が上下に配置されていて、ここの工夫がとても理解しやすいのではと思いました。その後には学びへの扉があって、古典の学び方を順に追って解説されていて、大変わかりやすい工夫だなと思いました。さらに、歴史年表に古典の作品が示されていて、こういった辺りは答申でも比較的アプローチが良いと綴られていたかと思います。さらに続いて、君は最後の晩餐を知っているかとダ・ヴィンチの教材へ繋げていて、日本の文化から西洋の文化へ目を向ける、こういう流れもとても良いなと思いました。
河田委員	私からは光村図書出版についてです。変化が激しく様々な情報があふれる社会で生きるためには、語彙力を身に着けることがとても重要だと思います。語彙ブックは日常的に使える使いやすい工夫がなされて大変良い教材だと思います。
山本教育長職務代理者	私は2社を比較させていただいて、まず東京書籍ですが、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育成するという点では、3年生に受け取る「利他」という中島岳志さんの作品が書かれていて、非常に興味深く読ませていただきました。また、未来への扉ということで、1年生でしたら多様性と共生社会、2年生でしたら地球環境と人間社会、3年生でしたら国際社会と私たちというように、子どもたちが未来の人間社会をイメージできるような教材が取り入れられていて、非常に良かったと思います。 光村図書出版ですが、先ほど言いましたように、子ども達が語彙力を高めるには本当に相応しい教科書だと思っています。国語力、特に問題解決の力が身に付くという視点では、いろんな教材を取り入れて、すごく読みやすい教科書だと考えました。結局、教材の持っている力というのは、子どもたち

(山本教育長職務代理者)	を動かして子どもたちが対話し、表現力を高めていくということになりますので、そのあたりの教材が1年2年3年とバランス良く入っているということはすごく良かったですし、また、各単元を通して同じようなテーマで発展的な課題を取り上げていくという部分も子どもたちがついていきやすい教科書ではないかなと思います。最後のところに学びを深めるということで、国語の力試しとか語彙を含んで30ページほどさいて取り組んでいます。その中で、本当にバランス良く1年2年3年という聞く・読む・書くという部分では、読むという部分が他よりは多いのですが、本当にバランス良く配置されたと思いました。
山本教育長職務代理者	それでは、3人の意見をまとめますと、思考力・判断力・表現力及び資質能力の向上の工夫がされていること、また、思考や表現力を高めるための語彙力の育成、そして先ほど佃委員からありましたように、プレゼンを考慮した教材。そういう教材に感動し、言語活動に取り組むための現代的なテーマや個別最適、伝統的な教材のバランスが良いこと。 さらに協働的な学習を意識した編集といった観点もふまえて、光村図書出版がよりより相応しいと思われますが、光村図書出版を採択することと決定してよろしいですか。
山本教育長職務代理者	(「異議なし」 の声) 異議なしと認め、国語の教科書は、光村図書出版の教科書を採択することとします。 続いて、書写についてお願いします。答申の4ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	東京書籍につきましては、「生活に広げよう」や巻末の「ノートの取り方」が、学んだことを生活や他教科の様々な場面に生かせるよう工夫されておりました。 次に、三省堂につきましては、情報量が多すぎず、シンプルで視覚的にもわかりやすく工夫がみられます。 また教育出版につきましては、左利きで書く場合の毛筆用具の置き方が掲載されており、まなびリンクで持ち方の動画があり特徴がみられます。 最後に、光村図書出版につきましては、利き手への配慮が動画で見られる二次元コードがあり、毛筆の文字の横に運筆がわかりやすく書かれているなど極めて分かりやすい工夫がされておりました。
山本教育長職務代理者	このことについてご意見をいただきたいと思います。

佃委員	書写は、各社とも見通しをもって学ぶことができる工夫がされていました。 まず東京書籍ですが、答申にもございましたが、毛筆のお手本でとてもわかりやすく、とん、すつと、止めたり払ったりすることをオノマトペで表現していることは本当にわかりやすいなと思いましたし、巻末の書写活用ブックでは、手紙の書き方からポスター、高校受験の願書まで幅広く取り扱っていました。 三省堂では、見開きで、右下の方に学習の目標があって、左の下の方にはできましたか、と確かめるような問いかけがあって、こういったかたちがとても良いなと思いました。また、資料編では、日常の書式や職場体験での依頼状やお礼状など、学校でも使える例示がとても良いなと思いました。 教育出版では、お手本について数字で筆圧の違いを表現されていて、こういったかたちもわかりやすいのかなと思いました。また、コラム、日本建築と「書」など、日常の中に書があったと屏風や掛け軸などを紹介し、伝統的なものから書を考えるコーナーはとても良いなと思いました。 最後に光村図書出版ですが、毛筆での点画の扱い方が丁寧で、確かめようで止め、払いをわかりやすく示されているのが良いと思いました。お手本の横に筆の運びが小さく示されているのも良いなと思いました。国語と同様で、学びのカギに学習のポイントが示されているので、学びの深まりに繋がっていくのではないかなと思いました。
河田委員	始めに、東京書籍です。巻頭の見開きページでは、文字を書く様々な場面がイラストと文章で書かれていて、書写を学ぶことの意味を子どもたちが考えられるようになっていました。基本の点画の書き方をオノマトペで表現したり、書き方のポイントをキャラクターの吹き出しにするなど、子どもたちが親しみやすい教科書になっていると思います。生活に広げようやノートの取り方で、書写で学んだことを日常生活や他の教科にも生かせる工夫がなされている点が良いと思いました。 次に三省堂です。巻頭の、この教科書の使い方は学習の流れを把握しやすい工夫がなされていました。書いて身につけようは、毛筆で学んだことを硬筆に生かすための練習のページになっていて、ふり返りの記入欄がある点も良いと思います。また、高等学校の芸術家書道の学習内容であるてん刻や書の古典について紹介されていて、子どもたちの書写への興味関心が高まるのではないかと思います。 次に、教育出版です。まなびリンクでは、学習に役立つ情報がタブレットで確認できるようになっています。左手で書く場合の道具の置き方も掲載されていて、子どもの利き手に配慮されていて良いと思いました。筆の力の入れ方がイラストと数字で示されていたり、楷書と行書の書き順が比較しやすいように並べてあるなど、子どもたちにわかりやすい工夫がありました。また、文字の変遷やあの人が残した文字のコラムが要所要所に掲載され、子ど

(河田委員)	も達の書写への興味関心が高まる工夫がなされていました。 最後に、光村図書出版です。手書きの良さを話し合う活動をマンガを用いて促している点は子ども達に関心を寄せやすい工夫で良いと思います。また、教科書から取り外して使える書写ブックがついている点が特徴的でした。タブレットの導入により、効率的に授業を進められるようになった一方で、子どもたちの文字を書く機会が減っているのでは、という心配もあります。デジタル化が進み、社会全体で手書きをすることが減りつつありますが、子ども達には文字を正しく丁寧に書くことを学び、手書きの良さを知って、書写の学習を日常生活に生かしてほしいと思いますので、書くことに力を入れられている点が大変良いと思いました。
山本教育長職務代理者	私も4社読ませていただきまして、4社とも書写の目標であります文字に対する関心を深めて、日常生活や学習活動に役立つ活動の充実ということで、すごく上手く構成されていると思います。 東京書籍につきましては、基本的な点画の書き方ということで、とん、すう、ぴたっというのが中学校の最初に書かれているということで、すごくよくわかる教科書だなと思います。また書写の力を生活に生かす言語活動ということで、生活を広げようという分で学習の内容が非常に明確になっていて、良かったと思います。 三省堂は、資料として、楷書と行書の一覧があるところがすごく良かったと思います。また学校意見書にもありますが、この教科書の使い方、あるいは、書いて身につけようというところで、全体の流れが把握できること。それから子どもたちが練習しやすい。その部分が非常によく工夫されていると思いました。ちょっと残念なのが、ページ数が少ないこともあって、3年生の学習については工夫がいるなと思っています。 教育出版ですが、コラムであの人が残した文字という、古典の鑑賞とかが学年によっては8か所くらいあったかと思います。そういうところが過去の先人たちの字にふれあえるというところで、子どもたちには感動を呼ぶかなと思います。それから小学校で学習した漢字一覧、あるいは中学校で学習する漢字一覧が楷書と行書の両方で書かれているというところが、子どもたちの学びに役立つかなと思います。 光村図書出版ですが、書く力、豊かな文字文化というところについては、非常にまとまった教科書だと思います。1年生のところで楷書と行書のわかりやすさというのをすごく感じられる教科書だと思いました。また、3年生で、全国文字マップというのがあって、文字の使いわけとか、手書きの部分が非常にわかりやすい教科書だと思っています。それから、これは使い方の問題になるかと思いますが、28ページにわたる書写ブックが入っていて、子どもたちにとっては非常に使いやすいのではないかと私は思いますが、実際の学校現場では是非の分かれるところかなと思います。

(山本教育長職務代理者)	教育出版と光村図書出版については、教科書と連動する書写ということで、それを表に出しておられますし、教育出版については小学校、高校との連携した資料等があって、その部分は中学生にとっては使いやすい部分かと思いました。
佃委員	先ほど言い忘れましたけど、光村図書出版では、日常に役立つ書式のところで、手紙の書き方から送り状の書き方、さらに、タブレットの書面とかプレゼンテーションシートまで扱っているのは良いなと思いました。
山本教育長職務代理者	それでは、皆様のご意見をまとめます。 いずれの教科書も使いやすく、学びやすく、生活の場面に生かせるように工夫されています。特に社会生活への実用性、個別最適な学びの工夫、国語の教科書との連動、書写ブックの子どもたちの使いやすさという観点から、光村図書出版がより相応しいと思われます。光村図書出版を採択することと決定してよろしいですか。 (「異議なし」の声)
山本教育長職務代理者	異議なしと認め、書写の教科書は、光村図書出版の教科書を採択することとします。 続いて社会の地理的分野についてお願いします。答申の5ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	まず、東京書籍につきましては、「まとめの活動」では、探究的な課題設定や思考ツールによる考え方の整理など、探究的、課題解決的学習によく適します。 つぎに教育出版につきましては、「ワードチェック」として語彙の習得や内容の理解を自己分析できるツールがあり、自己の学びをふりかえる上で極めて適しています。 また帝国書院につきましては、地図帳と同じような色や文字を使用しており、地図帳との関連は非常にわかりやすいという特徴がみられます。 最後に、日本文教出版につきましては、学習課題と見方・考え方をむすびつけて考えられるようよく工夫されており、課題設定からふりかえりまで、課題解決学習に極めて適しています。
山本教育長職務代理者	社会の地理的分野は4社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。
佃委員	地理は各社とも主体的に現代の世界や日本の課題を読み解いたり追究した

(佃委員)	りする学習展開となるよう工夫されていました。 まず、東京書籍では、学習課題がわかりやすく示されて、みんなでチャレンジでは、自らの学びや協働的な学びにつながるような工夫がありました。またスキル・アップでは、グラフや地図の読み取り方が丁寧に解説されており、資料から発展で、資料を読み取る力や説明する力を鍛える工夫もありました。 続いて教育出版ですが、単元ごとに学習課題が明確に示され、確認・表現で学習をふり返ったり発展させたりする工夫があるのが良いなと思いました。また、世界各地の地球的課題について、SDGsから考える仕掛けになっているのもとても良いと思います。教科書に直接書き込めるワークブックのようなものがあり、単元ごとの学習のまとめと表現で確認できるのも良いなと思いました。 帝国書院は、地理的な見方・考え方や、考えを整理する方法などを最初に示されていて、わかりやすいなと思いましたし、章全体の問があって、単元ごとの学習課題が明確になっていて、先ほど委員長も仰っていましたが、地図帳活用マークだけではなくて、確認しよう、説明しようなどでも、地図帳を活用して丁寧に学べる仕掛けは多くあるなと思いました。 日本文教出版では、地理的な見方・考え方が丁寧に扱われており、編ごとの学びに関心を持てるようグループの話し合いから始める工夫がされていました。学習の始めにで、問いを立てて見通しを持ち、本文ページで問を追究し、まとめとふり返りでふり返るという流れがとても分かりやすいと思いました。
河田委員	始めに東京書籍です。巻頭の世界の食事を見てみようは、日本との食文化の違いを知ることができ、世界への興味、関心を高める面白い内容だと思いました。地理を学ぶ5つのミカタは、地理の学習を楽しく、より深く学ぶための工夫がなされていて良いと思います。また、世界各地の中学生の話を掲載した聞かせて中学生は、同世代の子どもの海外での暮らしぶりが分かり、興味をもって楽しく読めるのではないかと思います。教材の資料掲載部分の背景に色をつけ、本文と区別をすることで見やすくなる工夫がなされていました。 次に、教育出版です。各教材は、写真やグラフ、地図などを掲載し、内容が理解しやすいように工夫がされていて良いと思います。学習コラム、地理の窓は、学んだことを別の視点でとらえることができ、さらに学びが深まり地理への興味関心が高まるのではないかと思います。また、持続可能な社会に向けては、SDGsに関連した日本や世界での6つの事例を取り上げ、多面的、多角的にとらえて考察し、課題解決に迫る内容となっていました。 次に、帝国書院です。巻頭に思考ツールの活用方法がまとめてあり、学習の際、大いに役立つのではないかと思います。また、掲載されている世界各

(河田委員)	国の写真がとても綺麗で世界への興味関心をもって学習に取り組めると思います。また、学習に必要な技能の習得や、日本や世界各国でのできごとをSDGsの観点から考える学習など、学びを深める活動が多く取り扱われている点が良いと思いました。 最後に日本文教出版です。各編の始めに、どんな学習をするのかな？の問があり、内容をつかんでから学習に入れる点が良いと思います。章のまとめのページでは、様々な思考ツールを使って考える問があり、思考力の向上が期待できるのではないかと思います。また、写真や資料を多く掲載し、学習内容の理解が進む工夫がなされていて良いと思いました。地理＋αには、学習内容と関連した情報の記述があり、本編の学習が深まりやすく地理への関心が高まるのではないかと思います。
山本教育長職務代理者	私も4社を見させていただきまして、特に本市では、地理の見方・考え方を身に着けるということが子どもたちにとって本当に必要なことだと思っています。そういうところで、地理に関心をもてるような教科書であればと思います。 東京書籍ですが、各単元の構成がパターン化されていて非常に見やすかったなと思います。例えばヨーロッパでしたら、導入の部分の写真が大きくて、その後、全体像を描いて、ヨーロッパの自然とか生活文化について、全体のイメージを膨らめます。そして、追求していく分野では、EUの写真を見せて、一つの大きな繋がりの中に持っていこうというかたちでEUを取り上げる。結局、最後はEUにも課題がありますのでその課題を考えさせるというかたちで、こういうパターン化された思考で各単元を構成しているということが非常に良かったかなと思います。あと、河田委員も言われましたが、私も世界の食事という開いた時の写真が非常に印象的でした。また、大阪はたくさん取り上げていただいているのですが、京都、奈良の取り上げが他社と比べるとすごく少ないのかなという印象を持ちました。 続いて教育出版ですが、これは地理的な見方、学びという視点や方向を、章を通した学習課題として示しておられるので、この部分はすごく良かったかなと思います。ただ、この地理的な見方・考え方については、他の出版会社もすごく力点をおかれているところですので、そういう比較は今後いるかなと思います。それから、各章、節のふり返りの中で、まとめられてその部分が見やすく、特に歴史とか公民との関連のページもあるということで、そういう構成はすごく良いと思います。特に地図を意識した第1章の世界の地域構成、こういうところも子どもたちの関心を得る部分かと思っています。 帝国書院ですが、どの出版会社も導入、学習課題、本文、ふり返りというところは同じですが、特にふり返りの確認しよう、説明しようというところでは、言語活動に繋げていく取組みがあり、この部分は非常にシンプルで子どもたちには入りやすいかなと思いました。それから、アクティブ地理とい

(山本教育長職務代理者)	うところで、4テーマあって、こういうところがこれからの未来に向かって子どもたちが考えていく身近な問題意識をもつというところでは、非常に大きな働きになるのではないかと考えています。あと、個別最適な学びをめざすということで、支援のコンテンツが非常に多くて、特に用語解説の部分が非常にたくさんあったなと思います。300から400くらいあったのではないかと考えています。ただ、あまりの多さで、実際の子どもたちの活用はどうかと危惧しているところです。 日本文教出版ですが、特徴の1つは、導入が単元を繋げにいく導入になっていて、あと、学習課題を考えていって、まとめ、そして議論をしていくというかたちでその議論の中にはテーマがあり、さらにまとめのふり返りの部分でポートフォリオの部分に記入ができるというところが1つの大きな特徴だと思います。なお、常に子どもたちに、何故、という問いを用いて、そういうところが主体的に取り組む工夫がされていると思いました。また、生徒の思考を重視しているというところでは、生徒が主体になっていて、問いであるとか、あるいは資料の活用であるとか、議論をするとか、そういうところが生徒を中心に考えられた教科書だと思います。
山本教育長職務代理者	それでは、今の意見をまとめますと、各社とも、持続可能な社会の実現に向けて現代社会を生き抜く力を育成するという観点で相応しい教科書だと思います。世界を知る探究心を醸成するという意味で、地理の見方・考え方の力をつけることは、本市の子どもたちには大切なことだと考えています。このことについて、特に、教育出版と日本文教出版が学習課題と結び付けて考えるようにしているというところで、本市には相応しいかなと思います。2社から本市により相応しい教科書を選定したいと思いますが、いかがでしょうか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	それでは、2社につきまして、ご意見をお願いいたします。
佃委員	教育出版と日本文教出版の近畿地方について比べてみましたが、教育出版は13ページ、日本文教出版は15ページにわたって丁寧に記載されていました。教育出版では大阪駅周辺の変化についてなど、写真に気づきを与えてくれるものが多いなという感想です。日本文教出版の方では、自然、世界、歴史へ、ネット産業、林業まで大変幅広くバランス良く扱われているなと感じました。さらに、タイトルの横にQRコンテンツがあって、ポートフォリオを用いてまとめることができ、学習課題を達成するための見方・考え方に繋がっているところが良いと思いました。それから日本文教出版は、答申や学

(佃委員)	校意見書にもありましたが、SDGsについて考えさせる内容が豊富に盛り込まれておりまして、河田委員も仰っていましたが、地理＋αでは、様々な観点から持続可能な地域をめざし、考えられるようになっている点がとても良いなと思いました。
河田委員	まず教育出版については、要所要所に、LOOKやTHINKといった学びを深めるコーナーがある点が良いと思いました。日本文教出版についてですが、巻頭で、学習をするうえで大変に重要な地理的な見方・考え方を見開き1ページで丁寧に説明していて、それらを意識しながら学習に取り組めるような工夫がなされている点が良いと思いました。また、学習の進め方がわかりやすい点も良かったです。
山本教育長職務代理者	2社の比較につきまして、まず教育出版ですが、特に地理の技というところでわかりやすい部分があるかと思いますが、非常に空間認識を重視された教科書だと思いました。地理の技、地理の窓というところで、いろんな写真とかそういう課題を通じて、子どもたちの興味関心を広げていくというところがすごく良かったかなと思います。少し残念なのは、地理の技では、実際の実技はあるのですが、協働的な学びの場面が非常に少ない。このことは、全体の章、あるいは各節のふり返りの部分でも、まとめ表現という部分がありますが、グループの活動というのはあまり見当たらないというところがあります。これについては、他社はみんなでチャレンジしようというかたちの共同作業を意識的にしている部分がありますので、少し残念だったかなと思っています。 日本文教出版ですが、先ほども言われましたが、まず一番子どもたちが感動するのは表紙の裏であるとか巻頭の部分かなと思います。表紙の裏には、持続可能な社会とわたしたちというかたちで写真が掲載されていて、子どもたちには、開いた時からそういう関心をもてるかなと思いますし、巻頭では、地理的な見方・考え方というかたちで、非常に詳しく、見方・考え方はこういうふうにして形成できるというかたちで書かれている部分が非常に良かったかなと思います。
山本教育長職務代理者	それでは、2社についてまとめたいと思います。 地理的な分野の目標である、グローバル化する国際社会への興味関心の喚起、あるいはSDGsの現代社会への課題認識と問題解決能力の育成という観点、本市の課題でもあります基礎基本の定着から自己の考えを深める工夫、そういう観点から、日本文教出版がより相応しいと思われます。 社会の地理的分野において、日本文教出版を採択することと決定してよろしいですか。

山本教育長職務代理者	(「異議なし」の声) 異議なしと認め、地理的分野の教科書は、日本文教出版の教科書を採択することとします。 続いて社会の歴史的分野についてお願いします。答申の6ページ、7ページをご覧ください。 選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	まず、学び社につきましては、見本本が一冊のみであり、限られた期間内で調査員、教員の十分な研究が困難であったため公正・公平な採択の観点から答申は行わないことをご報告いたします。よって残りの8社についてご説明申し上げます。 東京書籍につきましては、「学習課題」、「チェック」、「トライ」と課題解決の流れで構成されており、主体的に学ぶことによく適しています。 次に、教育出版につきましては、冒頭の「歴史のアプローチ」により、「歴史的な見方・考え方」について確認できるようよく工夫されています。 次に、日本文教出版につきましては、学習の始めに単元を通した問いを立て、学習の見通しを意識した構成になっており、まとめとふり返りでは、問いに対する答えを導き出すための学習ができるようよく工夫されています。 次に、帝国書院につきましては、「タイムトラベル」では、イラストで世界や日本の時代のイメージを視覚的に捉えられるよう工夫されています。 次に育鵬社につきましては、「歴史ビュー」、「人物クローズアップ」、「歴史ズームイン」で、多面的・多角的に学ぶことに適しています。 次に山川出版につきましては、各章の最初の部分に年表を配置し、日本と世界の歴史が分かりやすいよう工夫されています。 次に、自由社につきましては、学習したことを表現する「チャレンジ」のコーナーが設けられ、学習事項の活用に適しています。 最後に、令和書籍につきましては、文献資料、課題がたくさん設けられており工夫されています。
山本教育長職務代理者	社会の歴史的分野につきましては、8社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。
佃委員	歴史的分野につきまして、各社とも歴史的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されていました。 まず東京書籍ですが、歴史へのとびらでは、2ページにわたって小学校で学んだ内容をイラストでふり返ることができる工夫があり、歴史を捉える見方や考え方、歴史の流れの捉え方、調査発表の仕方まで詳しく説明されているのが良いなと思いました。

(佃委員)	現行の教育出版ですが、歴史ゲームから始まってクロスワードパズルで小学校までの既習事項に興味をもち、歴史を学ぶ見方・考え方を詳しく学ぶ導入が良いなと思いました。また、学習課題を明確にし、確認と表現でふり返られるようにするとともに、説明しようという能動的な態度で定着をめざしている点が工夫されていました。 日本文教出版ですが、私たちと歴史では、イラストと写真が効果的に配置され、歴史的な見方・考え方についても、時系列、推移、比較、つながりの4つの視点で示され、わかりやすいなと思いました。また、「歴史との対話」を未来に生かすでは、課題解決に取り組んだ先人の姿から学び、SDGsの実現に向けて考えることができるよう展開されている点も良いなと思いました。 次に帝国書院ですが、SDGsから始まっており、学び方の紹介、そして全体像を示し、歴史的見方・考え方をペリー来航を例に具体的に解説している点がわかりやすいと思いました。また、調べ方や考え方、発表の仕方など、生徒の活動の姿を通して学びやすく説明されていました。 育鵬社ですが、歴史ズームインでは、日本の震災の歴史を伝えるためにはどのようにすれば良いのかについて、話し合う学習展開が示されていて良いなと思いました。全体を通してとても説明が多い教科書だなと思いました。 山川出版ですが、歴史との対話と、章だてして年代・時代区分など文章で説明され、身近な地域を調べようでは、イラストと文章で発表までの活動がまとめられているなど、これは読み物としても面白い教科書だなと思いました。戦国大名の三好長慶がフルネームで紹介されているのは山川出版だけで、その点は山川出版に興味をもちました。
河田委員	始めに、東京書籍です。第1章歴史へのとびらは、小学校の学習のふり返りとして設置されていて、内容も面白く、楽しく学びながら中学校の歴史学習へ入れる工夫としてとても良いと思います。教材には、写真や資料が多く掲載されていますが、資料の部分の背景に色をつけ、本文と区別をしていることで、すっきりと見やすくなっていると思いました。また、コラム、もっと知りたいは、歴史の知識が広がり、興味をひく内容で良いと思いました。 次に、教育出版です。小学校からの導入として設置された、歴史人物クロスワードは、ゲーム感覚でふり返りができる面白い内容だと思います。また、各教材のタイトルが特徴的で、どんな内容なのだろうと学習への興味をひく工夫がなされている点が良いと思いました。学習コラム、歴史の窓は、知識が深まり、歴史への関心も高まるのではないかと思います。年表については、巻末にあるものは文字だけで作られていて、学習のまとめと表現にあるものは写真などを掲載し、できごとや世界との関連も記載されていました。 次に、日本文教出版です。年表が他社と比較してページ数が多く、写真や絵をいれてわかりやすく作られていました。各教材のページにも、写真や資

(河田委員)	料を多く取り入れ、内容を理解しやすい工夫がなされていて良いと思います。見開きページの右側にある年表スケールや世界の動きを表した地図で、同時代の日本と世界を比較しながら学習できる点が良いと思いました。歴史＋αや歴史を掘り下げる近代の女性など、コラムが多く掲載されていて、知識が広がり、歴史に対しての興味がわくのではないかと思います。 最後に、令和書籍です。文献資料を多く用い、一つ一つのできごとを細かく取り上げていました。また、單元ごとに課題が示されている点は、学ぶ内容を理解しやすくて良いと思います。本文中に使われている言葉が少し難しく感じたことと、学習内容の詳細さから、中学生の教科書として使用するのには、やや難易度が高い印象を受けました。
山本教育長職務代理者	歴史につきましては、社会的な事象の歴史的な見方・考え方というのを養うということは、高貴な目標かなと思います。そういう観点では、各社ともいろんな取り組みのなかで、子どもたちが課題を追求し解決する活動を取り入れていますので、いろいろと考えられた教科書だなと思いました。 各社をふれさせてもらいますと、東京書籍ですが、まず一番良かったと思うのは、みんなでチャレンジというかたちでグループ活動を取り入れている箇所が非常に多い。36か所あったかなと思いますが、こういうかたちで子どもたちの活動を保障していくというのはとても大事なことだと思います。第1章で歴史をとらえる見方・考え方を取り上げて、特に身近な地域の歴史ということで、全国の史跡・文化財を取り上げて、子どもたちの関心をもたせようという試みもとても良いと思いました。ただ、残念なのは、年表が2016年で終わってしまっていて、平成というかたちは書かれています、令和については全くふれておられないというところが非常に残念だなと思いました。 教育出版ですが、第1章に歴史のとらえ方、調べ方ということで、年代のあらわしかた、あるいは時代のわけかた、そういう部分が非常に特徴的で良かったなと思っています。 帝国書院ですが、アクティブ歴史ということで、主体的・対話的で深い学びを子どもたちに求めていく。それから、各章で小学校で学んだ人物とできごとが書かれている部分が非常に良かったかなと思います。あと、全体的な感じで言いますと、イラストが多くて、この部分が、視覚的に捉えるために、イラストをとっても多くされているのだと思いますが、タイムトラベル、あるいは先ほどもふれましたアクティブ歴史でもイラストで考えさせる部分が多いです。これについては是非があるかなと思っています。 それから山川出版ですが、これは章の導入の部分で日本と世界に詳しくて、写真も良くて、非常に年表としては使いやすいと思いますし、本文が事実の列挙ではなくて、何故そうなったのかという部分を学ぶという、そういう記述がすごく多くて、その点については子どもたちに考えさせる教科書かなと

(山本教育長職務代理者)	思います。幅広い知識とか教養を身につけさせるためには、非常に相応しいと感じています。 日本文教出版、これは先ほどから述べられておりますように、基礎基本の知識の習得というところが、特に基本用語ということで、32か所ですか、ありますので、ここらあたりが子どもたちに関心と呼びますし、学び合いというところで協働的な学びを意識している部分というのはすごく良かったと思っています。 自由社ですが、歴史的思考力を育てるということで、調べ学習を取り入れているというところが、新しいというか、すごく良い考えだと思いますし、調べ学習によって、子どもたちの思考力を育成するという意図が非常によくわかります。また、もっと知りたいというところで、すごく興味関心がもてるかなと思いますが、ややもすれば、歴史的な主張がすごく目立つ教科書ですので、その部分が、国民としての自覚とか国際社会でどう生きるかについては考えさせられなければならない部分かと思いますが、本市にとっては、基礎基本の知識ということの主眼にしていますので、少し使うにはしんどい教科書かなと思っています。 育鵬社につきましては、特に同じように国民としての自覚、国際社会で主体的に生きていくためにはどういう子どもたちを育成していかないといけないかという観点で編集されていますが、視点としては重要ですが、しんどい部分がやはり多いかなと思っています。 ということで、私としては、自由社、育鵬社、令和書籍につきましては、国民としての自覚とか、国際社会での子どもたちの生きていく姿という観点で編集されていて、重要な視点とは考えますが、少し本市にはしんどいかなと思います。
山本教育長職務代理者	それでは、皆さま方の意見をまとめます。多様な歴史的見方・考え方で基礎基本の育成という本市の課題、子どもたちが歴史に関心をもって、問題設定から問題解決まで意図的に進めるという観点、そういう観点から見ますと、東京書籍、帝国書院、山川出版については歴史的な見方や考え方に工夫が見られて、高校への連携という部分がありますが、内容的には専門性が高く、深い学びに繋がっていくということですので、本市では、教育出版か日本文教出版が相応しいのではないかと思います。 2社から本市により相応しい教科書を選定したいと思いますが、いかがですか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	それでは、教育出版、日本文教出版の2社に関して、さらにご意見がありましたらお願いいたします。

佃委員	教育出版ですが、学習のまとめと表現では、時代の移り変わりを図でわかりやすくまとめることで、歴史の流れを日本の動きと世界の動きと比べながらつかむ工夫がされているのがとても良いと思います。また、身近な地域の歴史を調べようという単元では、地域調査の手引き、ポイントなどを示すことで関連するシールを活用したり、内容を整理したりまとめたりする活動が紹介されていて、生徒たちには大変使いやすいと思いました。 日本文教出版ですが、先ほども出ていましたが、見開き2枚分の歴史年表が壮観、本当に圧巻で、これは良いなと思いました。また、QRコードが各ページにありまして、動画や静止画の資料、さらに歴史の学習に関連のあるウェブサイト簡単に接続できるメニュー等、デジタルコンテンツが豊富で、調査員の意見書、学校の意見書にもありましたが、個別最適な学びプラス、復習などにも使いやすくなっているのが良いとされていました。各章のまとめとふり返りでは、年表と地図を使って学習のふり返りができて、時代の特徴が捉えられるような工夫もありました。
河田委員	日本文教出版についてです。ページのレイアウトがよく工夫されていて、見やすく学習の流れがよくわかりました。また、先ほども申し上げましたが、年表が壮観で、見ていて面白く、大変良いと思いました。
山本教育長職務代理者	教育出版につきましては、先ほど選定委員長からもありましたように、歴史的なアプローチというところによって、歴史の見方・考え方について工夫があるところがすごく良かったかなと思います。あと、歴史を探ろうというところで、人権の扱いにすごく力を入れておりますので、そういう人権の取り組みであるとか、あるいは身近な地域に6つほどテーマがありますが、沖縄と北海道を取り上げておられるというところが、子どもたちの学びにはすごく良いかなと思いました。 日本文教出版ですが、先ほども申し上げましたが、基礎基本的な知識の習得にはすごく力を入れておられた。特に各編の導入について、4ページにわたって写真であるとかあるいは気づいたことを出し合って話し合うという学び合いの部分とか、子どもたちの関心をもちやすい工夫がされていると思います。また、学習の始めに、気づいたこと、あるいは各編の問いなど、はっきりとした学習の見通しをもつことができるので、そういう部分もよく考えられた教科書だと思っています。こういうかたちで、チャレンジ歴史、でかけよう！地域調べとか、そういうテーマをもって調べていくことによって、子どもたちの主体的な学びができるような意図的な編集をされていると思いました。
山本教育長職務代理者	それでは、まとめさせていただきます。 歴史的分野の目標である同時代の世界を概観し、新しい時代を担う主権者

	を育成するという観点、基礎的・基本的な知識の習得という観点、何より現代社会での課題解決から未来へ繋げる観点、生徒の興味関心を喚起するという観点から、日本文教出版がより相応しいと考えますが、社会の歴史的分野において、日本文教出版を採択することと決定してよろしいですか。 （ 「異議なし」 の声 ）
山本教育長職務代理者	異議なしと認め、歴史的分野の教科書は、日本文教出版の教科書を採択することとします。 続いて、社会の公民的分野についてお願いします。答申の 8 ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	まず東京書籍につきましては、学習を進めるにあたって、導入部、展開部、学習をまとめる終結部という形で構造化されており、主体的な学びによく適しています。 次に、教育出版につきましては、「私たち」を意識した学習課題として設定することで、自分事として考えられるようよく工夫されています。 次に、帝国書院につきましては、各章の導入で学習内容と日常生活を結び付けて考えられるよう工夫されています。 次に、日本文教出版につきましては、小学校社会科、地理的分野、歴史的分野との関連が示されており、横断的な学習によく適しています。 次に、自由社につきましては、「アクティブに深めよう」では、これまでに学んだことを活用して自分の考えを整理できるよう工夫されています。 最後に、育鵬社につきましては、日本の伝統と文化について多く学べるよう工夫されています。 以上、簡単ではございますが説明とさせていただきます。
山本教育長職務代理者	社会の公民的分野は、6 社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。
佃委員	公民につきましては、各社とも、地理的、歴史的分野の成果を活用するとともに、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう工夫されていました。 まず東京書籍ですが、導入の活動ではイラストもわかりやすく、その内容にすっと入っていける工夫がされていました。みんなでチャレンジでは、個人の活動とグループの活動を組み合わせて考えを深められる工夫がありました。また、探究ステップでは問いが示され、まとめの活動でふり返り考えをまとめていく構成でわかりやすいなと思いました。 続いて、教育出版ですが、終章の私たちが未来の社会を築くでは、SDG

(佃委員)	sについて深く学ぶとともに、私の提案を作成するという主体的な態度を身につけられる様々な工夫や仕掛けによって、生徒の活動が充実するように思えて、公民の最後の学習に相応しいなと思いました。 帝国書院ですが、学習の前にでは、各部の最初に見開きのイラストがあり、TRYの活動で自然に学習が進められるように考えられていました。また、章の問いに対して、ページ番号とともに、学習をふり返ろうが示されて、学習をふり返り探究したいテーマがまとめられるようになっていました。 日本文教出版ですが、学習の始めにや章の問いで、漫画風に示された身近な場面にある学習課題に基づいて学習を進められるよう、節ごとに節の問いを設定し、課題解決に向けて学習を進め、章のまとめとふり返りで学習内容をふり返り、章の問いをまとめていく構成で、巻末にある思考ツール等も活用してまとめることができるので、大変良いなと思いました。また、合唱コンクールの練習のスケジュールを考えようという單元では、いろいろな見方・考え方から、互いの権利や利益を尊重するための決まりの必要性に気づいたり、社会に参画する態度を身につける工夫まで、いろいろな仕掛けがあって、大変生徒にとっても面白い教材かなと思いました。 最後に育鵬社ですが、現代社会の入り口、政治の入り口など、話し合う活動から、見通しをもって節ごとの学習に入れるようになっていました。また、人生をデザインしようは、15歳で考えるには面白い内容だと思いました。
河田委員	始めに東京書籍です。資料掲載部分の背景に色をつけて本文と区別して見やすくなる工夫がなされていました。みんなでチャレンジは、1つの課題についてグループで話し合うことで、対話的で深い学びができて良いと思います。また、18歳へのステップは、選挙や18歳でできること、20歳でできること、契約と支払い方法等について、数年後には成人となることを意識しながら学ぶことができて良いと思いました。 次に、日本文教出版です。各章の始めに、どのようなことを学ぶのかを漫画で示し、学習に入りやすい工夫がある点や、教材に写真やイラストを多く用いて内容をイメージしやすい工夫がなされている点が良いと思います。また、チャレンジ公民では、公園作りの話し合いや、模擬選挙等を実践で学び、明日に向かってでは、数年後、成人になることを意識づけ、SDGsや災害、街づくり等、多様な社会の課題について考えることで、公民での学習を社会に繋げていくことができるのではないかと思います。
山本教育長職務代理者	東京書籍ですが、先ほど河田委員もふれられましたように、みんなでチャレンジというところが、非常にグループ活動を意識した工夫があつて良かったと思います。憲法については人権を中心に扱っているという部分が他の出版会社とは違ったかなと思います。 日本文教出版は、憲法については、私たちという中心的な問いかけをされ

(山本教育長職務代理者)

ているという部分がありましたので、この部分が他とは異なるかなと思います。それから、合理的な配慮というところについて、これは現代的な課題として各社ともふれなければならないところかなと思いますが、その部分がやや不十分で、日本語学級で学ぶ外国人、これが5行程度でふれられているというのがやや残念だなと思いました。ただ、始めに町のイラスト等をいれて導入の活用をされているというところは、子どもたちが導入という部分で非常に興味をもつかなと思います。探究ステップにもイラストが描かれていてその部分については子どもたちも興味をもつかなと思います。ちょっと残念だったのは、課題に対するイラストがちょっと適当かなと思うところのイラストもあったというのがちょっと残念かなと思いました。

教育出版ですが、持続可能な社会に向けてで、なぜという問いかけが2ページにわたって書かれていまして、これについては非常に興味をもったところ です。さきほど言いました合理的配慮については街づくりのところでふれられておられたのが教育出版です。

次に帝国書院ですが、未来に向けてというところがアクティブ公民というところであって、18歳の準備など、そういう課題に対応しておられるところが良かったと思います。また、性の多様性、性自認、LGBTQ、そういうところにも詳しくふれられておられました。ただ残念なのが、合理的配慮についてのふれている部分がなかったというのが残念な点です。

日本文教出版ですが、先ほど憲法の部分は言いましたけれど、章の導入の部分で、学習の始めに気づいたことを出し合おう、問いを立てよう、それから学習の見直しをするというところで、これは日本文教出版が公民に限らずそういうかたちで未来へ向かってSDGsを意識した取り組みをされていて、最終、ポートフォリオを活用するという部分の構成をされていますので、他の教科書とも同様の取り組みかなと思います。また、チャレンジ公民、それから、そういうところのテーマが5つであったり情報のスキルアップでネット社会であるとか、あるいは新聞について取り上げているところも、非常に詳しい取り上げ方かなと思いました。あと最近のトピックスというところで、コロナについて、あるいはウクライナについて取り上げておりますので、性の多様性についてもそうなのですが、トピックスの取り上げ方も現代的で良いのではないかなと感じました。

自由社ですが、これは科学・芸術・宗教について、なんだろうというかたちで各章ごとに考えさせるという部分では、子どもたちが主体的に考えていくという点では良い取り組みだと思います。また、アクティブに深めようというところで自分の考えを整理し、協働的な学びを求めているというところはよくわかりました。ただ、日本国憲法の成立過程であるとか、そういう部分は、あるいは憲法改正、そういうところについては非常に詳しく取り上げ、家族間、あるいは国家間、あるいは天皇思想の強調というところの取り上げ方は他社とは違う取り上げ方をされているという印象を持っています。

(山本教育長職務代理者)	育鵬社については、社会を正しく見る目を鍛えて、何が正しいかを判断させるような能力を養うというかたちで主張されている部分が多いかなと思います。憲法の問題、あるいは大日本帝国憲法の評価、天皇に対しての記述が非常に多いという印象を持っています。ただ、日本の伝統文化については詳しく述べられていますし、各章の学習のまとめ、あるいは社会のまとめという点についてはふり返りとして非常に適当だなと思います。
山本教育長職務代理者	それでは、公民についての皆さんの意見をまとめ採択をしたいと思います。 現代社会の仕組みを身近な課題から考えさせる工夫、協働的な学びを通して主体的・対話的で深い学びを実現する工夫、地理・歴史的分野や小学校の社会と関連した横断的な学び、多様性の重視、特に人権の配慮という観点から、日本文教出版が相応しいと思いますが、日本文教出版を採択することと決定してよろしいですか。 (「異議なし」の声)
山本教育長職務代理者	異議なしと認め、公民的分野の教科書は日本文教出版の教科書を採択することとします。 続いて地図についてお願いします。答申の9ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	まず東京書籍につきましては、二次元コードには、デジタル地球儀があり、ズームしてより詳しい情報を得られるよう工夫されています。 次に、帝国書院につきましては、近畿地方ページにも四條畷の記載があり、また、日本で起こる災害について、地震、噴火、水害についての実例が写真付きで紹介されており、自分事として考えられるよう工夫されています。
山本教育長職務代理者	地図は2社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。
佃委員	両社とも社会科の学習内容と関連付けながら活用できるよう配慮されました。 まず、東京書籍ですが、見開きの世界地図のところですが、色合いが優しくて字体が見やすく、文字の大小でコントラストをつけて細かい表示も見やすい工夫がされていました。アジア州についても高低差がソフトに描かれていたかと思います。近畿地方ですが、大阪と奈良の情報がたくさんあるのですが、若干混在していて、その部分が少し見にくさを感じました。日本の自然災害のところでは、ハザードマップや浸水するケースなど、いろんな資料が掲載されていました。また、QRコードが各所にあり、デジタルコンテン

(佃委員)	ツを自由に活用することができるというのがとても良いと思いますし、デジタル地球儀を体験できる場所も良いなと思いました。 帝国書院ですが、見開きの世界地図は色合いがはっきりしていて大変見やすいなと思いました。例えばアジア州では、チベット高原の山脈の様子や海溝の深さまではっきりとわかる示し方で、生徒にとっても大変使いやすいのではないかなと思いました。また、近畿地方では四條畷市がはっきりと掲載されていて、文字のめりはりもあって各地名も見やすく、万博予定地とあって、関西万博に対しての大阪の子どもたちの関心度も考えると、使えるのではないかなと思いました。また、日本の自然災害のところでは4ページにわたって詳細に記載されており、地震の震央として、発生地点と大きさがわかりやすく示されている工夫などで、いかに日本が地震大国なのかがわかるような工夫がされていてとても良いと思いました。また、台風や線状降水帯について等、現代の課題についても詳細に記載されているのはとても良いと思いました。
河田委員	始めに、東京書籍です。使用されているフォントや文字のサイズ、レイアウト等が見やすくて良いと思いました。江戸と東京の鳥瞰図を上下に並べて見比べられるようにしていたり、大阪、京都、奈良と東京の歴史と治水について地図で示されているところは興味深く、地図学習が他の社会科学学習と関連付けられている点が良いと思います。デジタルコンテンツにはデジタル地球儀があり、ズームしてより詳しい情報を得られる等、子どもたちが興味をもって学習に取り組める工夫がなされていると思いました。 次に帝国書院です。使用されているフォントや文字のサイズ、図の配色が見やすくて良いと思いました。巻頭に、地図で考える持続可能な社会について複数ページにわたって掲載してあり、現代的な課題を丁寧に取り上げられている点が良いと思います。また世界各州の鳥瞰図には、その地域に関するイラストが描かれている等、全体を通して日本や世界各地への興味関心がわく工夫がなされていて、子どもたちが楽しんで学べるのではないかと思います。デジタルコンテンツには、調べ学習で使える資料が豊富にあるため、探究的な活動がしやすく、地図学習から他の教科や活動へ繋がる工夫がなされていて良いと思いました。
山本教育長職務代理者	私も2社を読ませていただきました。 東京書籍につきましては、資料、写真が非常に豊富であるという印象を持ちました。特に今回の改訂からA4に拡大されたということがありますので、その分、地図帳が見やすいかなと思います。地図帳活用コーナーというコーナーで調べ学習ができるとか、あるいは1枚の地図でいろいろ考えさせるとかそういう部分があり、また、87, 88ページの2ページにわたって、大阪、京都、奈良の歴史と治水というかたちで取り上げられていて、この部分

(山本教育長職務代理者)	については非常に詳しく、子どもたちも関心をもつのではないかと思います。 帝国書院ですが、先ほども言われましたように、災害の問題、地震であるとか噴火であるとか水害であるとか、そういう部分が写真付きの実例として出てきていて、これは非常に授業等でも取り上げやすいのかなと思います。また、巻頭で地図で考えるというのが7ページにわたって書かれていて、この部分も非常に丁寧だなと思いました。あと、地図で発見のコーナーというところで、資料の活用能力であるとか、思考力から考えるというように内容が設定されておりますので、ここは非常に多面的な思考ができるのではないかと思います。 2社を比較させてもらいますと、資料については帝国書院が沖縄とか具体的なところを取り上げて非常に丁寧であると思いました。それから鳥瞰図につきましては、東京書籍は平原であるとか高原というところの説明がされていて、その部分は帝国書院の方では民族衣装とか、あるいは道具史とかも見て比較はできるので、帝国書院の方が使いやすいのではないかと思います。それから世界の諸地域、あるいはアジアの扱っている箇所というところを見ますと、帝国書院は東京書籍の1.5倍にあたる23か所も取り上げています。防災安全への考察については帝国書院は16ページで、東京書籍の3倍になっているかなと思います。この部分、帝国書院の方がページ数が多いということに繋がっているのですが、そういう意味で言うと、子どもたちには使いやすいかなという印象を持ちました。
山本教育長職務代理者	それでは、皆さんのご意見をまとめますと、地図を通して、歴史、産業、経済、文化等、社会との関連を考える点、日本や世界の諸地域に学び、社会科の学習を深める工夫、地図で持続可能な社会について理解するという観点から、帝国書院がより相応しいと思われますが、帝国書院を採択することと決定してよろしいですか。
山本教育長職務代理者	(「異議なし」 の声) 異議なしと認め、地図の教科書は帝国書院の教科書を採択することとします。 続いて数学についてお願いします。答申の10、11ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	まず東京書籍につきましては、日常生活や社会の事象をもとにした題材が扱われており、日常生活から課題設定につなげられるようよく工夫されています。 次に、大日本図書につきましては、「力をのばそう」、「活用・探究」、

(鉄選定委員長)	「総合問題」、「課題学習」、「MATHFUL」など発展的な学習に適しています。 次に、学校図書につきましては、すべての学年に、紙教具を使用する教材があり、操作をとおして考えを深めることに適しています。 次に、教育出版につきましては、各単元で「学びのプロセス」が設定されており、学び方を学ぶことによく適しています。 次に、啓林館につきましては、「学びをいかそう」では、身の回りで活用する課題が掲載されていて、数学を学ぶ意義や有用性を感じながら学ぶことによく適しています。 次に、数研出版につきましては、単元の導入で、身近な生活の中で出てくる疑問が扱われており、課題解決的に取り組むことに適しています。 最後に、日本文教出版につきましては、章末問題の最後に説明する問いが配列されており、思考、判断、表現する力を伸ばすのに適しています。 以上、簡単ではございますが説明とさせていただきます。
山本教育長職務代理者	数学は7社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。
佃委員	数学についてですが、各社とも個別最適な学びと協働的な学びについて、立体的に充実させるような課題と学び方が設定されていました。 まず東京書籍では、マスコネクトという言葉でつながりをキーワードに、身の回りからICTまで数学の世界を広げているのが大変興味深いなと思いました。また、導入の絵や写真、イラストを用いたページでは、身近な内容を扱っていて、すっと入れる工夫がありました。 大日本図書では、活用・探究では、他教科と関連付けて日常生活をより良くする工夫を考えたり、さらに、自ら課題を作って取り組む等、より深められるようになっていました。 学校図書では、深めようでは、キャラクターの吹き出しでうまくヒントを与えて、様々なジャンルの内容を扱うことで、数学といろいろな世界を繋げていて、また、続く、ふりかえりのページは楽しい工夫があるなと思いました。 教育出版では、みんなで数学をはじめよう、のページでは、問題をつかむ、見通しを立てる、深める、問題を解決する等、学びのプロセスについて丁寧に解説されていて、授業の進め方を確認できるような工夫がされています。 現行の啓林館では、単元の導入で身近な生活の中で出てくる疑問を扱い、数量や図形の性質を見出し、課題を解決しながら取り組む構成になっていました。単元末には、学びを確かめよう、学びを身につけようが配置され、巻末には学習内容をふり返ったり深められる数学広場があり、QRコードで解説を見るようになっている工夫がわかりやすいと思いました。

(佃委員)	数研出版は、無駄を省いたようなシンプルな作りで、対話的な学びに繋がって問題解決ができるように工夫されていました。 最後に日本文教出版ですが、章ごとの導入のページで丁寧に考える問いがあって、協働的な学びを通して新しい内容にも取り組みやすい工夫がされていました。また、章節ごとに大切な見方・考え方が示されており、見方・考え方を働かせて、より深い学びになるよう工夫されていました。
河田委員	始めに、東京書籍です。巻頭の大切にしたい数学の学び方で学習の進め方が示され、ふり返りのまとめ例やふり返しレポート例をあげているので、子どもたちが参考にして学習に取り組むことができていると思います。また、様々な職業の方へのインタビュー記事もあり、数学が仕事の中でどのように使われているのかを学び、例えばスポーツ栄養士の仕事であれば、選手の献立について、数学を使って考えてみるなど、本編と関連付けながらも少し逸らした活動は楽しく取り組むことができ数学に苦手意識をもつ子どもも興味をもてるのではないかと思います。 次に、教育出版です。巻頭で大切にしたい数学的な見方・考え方を9つの例をあげて示し、小学校での学習をふり返し、中学校の学習へ繋がる工夫がされていました。工夫してノートを書こうでは、ふり返しレポートの例が見開き1ページで示され、説明が丁寧にされていて良いと思います。各章の始めにあるLet's Tryは課題を解決することで、新しい単元に入っていくやすくなる仕掛けがされていて良いと思いました。また、章末問題にある二重丸、丸、三角で学習のふり返しができる点も良いと思います。 最後に、啓林館です。数学の大切な考え方については、問題解決と問題発見の二つのグループにわけ、それぞれ同じように考えるや、範囲を広げるなどの考え方の標識を教科書の適切な箇所に置き、いつでも大切な考え方を意識できるようにしてある点がとても良いと思います。また、説明しようや、話しあおうなど、表現する力を身につける活動が豊富に取り入れられていると思いました。
山本教育長職務代理者	私も読ませていただきまして、まず、東京書籍ですが、もっと数学をつなげようというかたちで、自由研究を含む数学史もあるのですが、各学年20から30ページくらいになっていまして、非常に興味関心をひくなと思いました。 大日本図書ですが、章の導入が実生活から始まるということで2ページほど書かれています。そういうところで、非常に社会生活を重視していると思いました。あと、発展的な内容として、力を伸ばそう、活用課題、総合問題、課題学習など、非常に多彩ですので、これは使用する場合に少し是非があるかなと思います。また、新しい課題である素因数分解や累乗についてはほとんど触れることなく、不十分だったという印象を持っています。

(山本教育長職務代理者)	学校図書ですが、各章にふりかえりで既習学習を十分に活用できる。さらに巻末にさらなる数学へということで協働学習の定義がある。これも各学年とも表現する力を身につけよう、プラス、レポートの作成ということで、そういう協働学習含めての取り組みが良いかなと思いました。それから、具体的な中身としては、3年生の解の公式は具体例を含めて非常に丁寧に書かれているという印象を持っています。あと円周角の定理の利用で、海図上の船の位置を確認させるという取り組みが他社にない、日常生活にはまった取り組みかなと思いました。QRコンテンツがすごく多くて、この部分は少し使い方に工夫がいるかなと思います。 教育出版につきましては、各章にLet's Tryという部分があり、ここから導入しています。身近な生活から考えさせるということで、特に3年生の4章に、ボールの転がり方という部分で、$y = ax^2$を考えさせるという方法はとても良かったかなと思います。あと巻末に学びのマップで非常にうまくまとめられるようになっていて、巻末につきましては、数学ライブラリーを含めて60ページほどあり、非常に子どもたちは関心をもって取り上げられることができるかなと思いました。 啓林館ですが、章の導入が1ページあって、テーマが身近ですごく良かったと思います。なお、巻末には数学広場というところで、さらに学びを生かしていくというかたちで子どもたちの力がつくかなと思います。 数研出版ですが、導入が写真、実生活から入っていますので、非常にわかりやすいと思います。1年生で数の大小は、数直線を利用しています。それから、集合の定義も正確で他社は「条件」と書くだけですが、説明が非常に数学的であって、高校を意識していると思いました。すべてが定義から論理的に展開しているということで、数学を得意とする子どもたちには非常にわかりやすい教科書かと思います。
山本教育長職務代理者	それでは、数学についてまとめます。 本市の子どもたちには基礎基本の習得から発展的な問題解決まで、幅広い数学的なニーズがあります。身の回りの生活から数学的な関心を喚起して粘り強く学び続ける子どもたちを育てるという観点から、さらに検討したいと思います。 これらの観点から皆さんの意見をまとめますと、東京書籍、教育出版、啓林館の三社が本市としては相応しいかと思います。3社から本市により相応しい教科書を選定したいと思いますのですが、いかがでしょうか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	それでは3社について、ご意見ありましたらお願いします。

佃委員	教育出版では、L e t ‘ s T r yでは、身近な話題から数学的な導入までつなげている点があると思いますし、また各学年、学びのプロセスが示されていますけれども、これは四條畷市の学びのスタンダードに近いもので、先生方も指導しやすいのではないかと思います。 さらに啓林館では、単元のなかでより理解を深めるために、説明しよう、話しあおう、まとめあおう、と活動のヒントが載っているので、協働的な学びを工夫することができるなと思いました。特に、四條畷市の子どもたちもデータを活用して考えるということが苦手な子どもたちも多いと思うのですが、こういったプロセスが含まれていますし、モデル文がヒントとなるように示されていますので、授業でもたいへん取り組みやすいのではないかと思います。
河田委員	啓林館について。巻頭でノートの取り方のいくつかの例を挙げ、後で見返して活用できるノートのまとめ方が丁寧に説明されている点が良いと思いました。また、教科書全体を通してレイアウトに工夫がありとても見やすく、学習の流れがよくわかりました。
山本教育長職務代理者	私も3社を比較して、まず東京書籍ですが、数学マイノートが各学年、1章で扱われておりまして、子どもたちは非常に使いやすいかと思います。興味関心をひくところですが、ただ、1年の0章で、素因数分解と累乗の指数の問題があります。これは負の数を学習する前に扱うということで、これについては是非があるかなと思っています。集合の概念などがない段階で素因数分解、あるいは整数を考えていくということになりますので、授業のやり方としてはしんどい部分があるかもしれないと思っています。 教育出版ですが、2年生の4章にある証明の進め方、特に合同の証明のところは詳しい考え方で証明を導いています。証明というのは、子どもたちにとっては非常に不得意な特に思考力にいるところなのですが、その部分が非常に詳しい導入で導かれていると思いました。先ほど東京書籍でも申し上げましたが、素因数分解については東京書籍と同じく負の数の前に取り上げている教科書です。ただ、2章で数の集合というのを取り上げていますので、この部分が少し東京書籍とは違いますが、他の出版会社は集合という説明を意図的にされているのですが、ここら辺りが不十分な印象を持ちました。 啓林館は、集合のところではっきりと閉じるという概念を考えさせて、素因数分解については、1年で学びさらに3年でもふり返るという取り入れ方をしていますので、子どもたちにはわかりやすいと思います。また、難しい部分の3年生の資料で、$\sqrt{2}$の無理数の証明については、高校の問題なのですが、それを発展でとりあげて、高校数学の例として出しているところが、よく学べる子どもたちにとっては興味関心があるかなと思いました。あるいは、三角形の五心でありますとか、方べきの定理とか、高校でも取り扱う教

(山本教育長職務代理者)	材についての部分もとあげていますので、関心のある子どもたちには使いやすいかなという印象を持ちました。
山本教育長職務代理者	それでは皆様のご意見をまとめます。基礎的な概念から数学的な表現力を養い、問題解決に至る工夫、対話を通じて協働学習を充実させる課題や学び方が設定されている点、基礎基本から発展的学習への工夫、日常生活からの課題設定をつなげるという工夫、さらにICT活用で学習が広がる効果などから、啓林館がより相応しいと思われますが、啓林館を採択することと決定してよろしいですか。 (「異議なし」の声)
山本教育長職務代理者	異議なしと認め、数学の教科書は啓林館の教科書を採択することとします。それでは、審議の途中ではありますが、これより午後1時まで休憩とさせていただきますと思いますが、いかがでしょうか。 (「異議なし」の声)
山本教育長職務代理者	それでは、これより休憩に入ります。 (休 憩)
山本教育長職務代理者	それでは休憩を閉じまして、再開いたします。 続いて理科についてお願いします。答申の12、13ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	理科について、まず、東京書籍につきましては、1見開き1時間構成になっていて、学習内容が一見してわかりやすく、学習の見通しが立てやすいよう、よく工夫されています。 次に、大日本図書につきましては、関連する内容を学習するところには、マークや該当ページを示し、既習事項をふり返ったり今後の学習の見通しが持てたりするよう工夫されています。 次に、学校図書につきましては、全国学力・学習状況調査の過去問や、高校入試の過去問から、知識を活用するなど発展的な学習に適しています。 次に、教育出版につきましては、探究の進め方を始めに説明し、生徒が自分の疑問から探究を始められるよう工夫されています。 最後に、啓林館につきましては、動画でチャレンジにおいて、動画から情

(鉄選定委員長)	報を読みとる課題が出題されるなど、デジタルコンテンツが充実しており、学習の補充や学び方のサポート、個別最適な学び等によく適しています。
山本教育長職務代理者	理科は5社です。ご意見をいただきたいと思います。
佃委員	理科につきまして、学び方の工夫という観点から申し上げましても、各社とも理科の見方考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現されるようにされていました。 まず、東京書籍ですが、どの単元でも、レッツスタート！の問題発見、そして課題、仮説構想、観察実験、分析解釈、結論、ふり返し活用といった流れで構成されていて、ページの左下に、今どのような活動に取り組んでいるのかも示されており、学習の見通しが立てやすい教科書でした。 大日本図書では問題を見つけよう、計画を立てよう、結果から考えよう、ふり返ろうと探究の過程がマークで示されていて、生徒の会話をヒントに、主体的・対話的で深い学びができるようになっていました。 学校図書では、気づき、課題設定、仮説検証・計画、観察・実験、結果、考察、ふり返り、伝える、次への気づきという流れになっていて、ページの左にその過程が示してあるので、見通しを持って進めやすいと感じました。 教育出版では、探究の進め方を折り込みで示して、疑問を見つける、課題を決める、仮説や計画を立てる、観察や実験などをする、得られた結果を考察、結論を出すの順で展開し、生徒の見通しを持って学習を進めやすい工夫がされていました。 啓林館では、探究を始めよう、探究とは、から始まり、探究の流れを学んでから、疑問、課題、仮説、計画、結果、考察まとめの流れで学習し、探究する力を育てる流れになっています。特に、その流れで取り組む探究実験では、理科の見方考え方がわかる対応が載っていて、主体的な活動が促されるようになっていてとても良いと思いました。
河田委員	始めに、東京書籍です。見開き1ページに毎時間の学習内容をまとめ、学習の流れがわかりやすいレイアウトになっていました。教材に写真を大きく掲載していたり、漫画で学習内容を示すなど、子どもたちが興味を持ちやすい工夫がされていると思います。また、理科の見方、考え方を具体的に示しているので、どのような観点で学習に取り組むのか意識でき、より深い学びに繋がる点が良いと思いました。 次に、大日本図書です。暮らしの中の理科では、理科が日常生活や社会で活用されている例を紹介していて、子どもが理科への興味関心を高め、楽しく学習できるようになるのではないかと思います。また、同じ学年に関連する内容を学習するところには、リンクマークで該当ページを示していて、既

(河田委員)	習事項をふり返ったり、今後の学習の見通しが見て持てるように工夫されている点が良いと思いました。 次に、学校図書です。巻頭のコラム、なぜ理科を学ぶの？では、身近な仕事や生活を例に、理科が世の中で果たす役割や、理科を学習する意味を学び、学習に向かう準備を整える工夫がなされていました。また、C a n－D o L i s t が用意され、章の始めにどのような知識を身につけるのか見通しを立て、章の終わりに何ができるようになったかふり返りができるようになっていて、子どもが自身の理解度を確認できる点が良いと思います。 次に、教育出版です。巻頭の探究の進め方で、理科の学習の仕方を確認できるようになっています。確かな学力をテーマに教科書が作られていて、節や章、単元、学年終わりに学習問題が設置され、知識の定着に力を入れて教科書を作られているということがよくわかりました。また、まなびリンクのコンテンツで子どもが主体的に学習に取り組める点も良いと思います。 最後に啓林館です。探究する力をテーマに教科書が作られていて、答えを導き出すまでの過程を丁寧に考えられている点が、とても良いと思いました。各教材には写真が大きく掲載されていて見やすく、子どもたちの興味を引く工夫がなされていると思います。また、探究学習の流れが明確で、見通しを持って学習に取り組むことができ、各節の最後にあるA c t i o n活用してみようは、単純なふり返りの問いではなく、発展的な学びを深められる問いになっている点は良いと思いました。
山本教育長職務代理者	理科につきましては、自然現象や自然の事象について探究して、科学的な思考力を育成するというのが本市の課題かなと思っています。そういう意味でいうと、どの教科書もいろんなことを探究し、子どもたちの興味関心を喚起するような工夫がなされていると思います。 まず、東京書籍ですが、実験・観察・実習ということで、問題を発見させて解決してまとめるということで、理科の見方、考え方の学びを深めるというところでは、手順も含めて、うまく構成をされていると思いました。特に基礎から活用するまでというのが、スモールステップで、子どもたちが本当に活用しやすいような、仕組みになっていると思います。 大日本図書ですが、これも各章に探究活動が8ページほどあって、実際に、実験とかに生徒の写真も多く活用されていますので、そういうところと言うと、実験の手引き等はまとまっていると思います。考えを深めようというところで、問題定義が随分多く、これについては、実際使うときに、少し工夫がいるという印象を持ちました。 学校図書ですが、各単元の始めに導入があって、学びましょうとか、ふり返りつなげようという形で、導入のところの探究1、2というのはすごく、子どもたちには目標をもちやすいと思いました。 学校図書で言いますと、天体の部分の太陽系と宇宙の広がりという点がち

(山本教育長職務代理者)	よっと他社と比べて簡単かなという印象を持っています。 それから3年生の生態系の部分が第2で、多くの出版社は第5の環境、自然、科学技術と人間と同じ分野で書かれている部分が第2でとりあげてきているというところで、これも是非のわかれるところかなと思っています。 教育出版ですが、各学年の巻頭に探究の進め方があって、子どもたちがどういうふうに、探究活動を進めたいのかってということがよくわかるなと思いました。また、改定前は理科室の決まりが、2年生の巻末にしかなかったのですが、その部分を、各学年の巻頭に持ってきているということで良い理科室のルールづくりに、特化されてきているなという印象を持っています。また、小中高の連携というところで、思い出そうあるいは、広がる科学の世界というな、発展分野もあって、小学校のことを思い出しながら、高校ではこういうことするのだなという見通しをもてるというところで良いと思いますし、何より学習前の私と、学習後の私というのは各章にあって、子ども自身が自分の学びを、自分で自覚できるような仕組みになっていると思います。 それから教育出版はもう一つ、読ませていただいて、感じた部分は遺伝DNAに関する部分が今現在の生物の中では大きな位置を占めているかと思うのですが、それについては非常に詳しく書かれて、生命の单元だけで50ページぐらいに渡っていますので、そこら辺りを詳しく学びたいと思う生徒たちにとっては、良い教科書かなと思いました。 啓林館については、先ほど河田委員も言われましたように、私も探究する力の育成ということが、巻頭から、探究ガイダンスという形で出ていまして、この部分について、非常に良いかなと思いますし、写真が、すごく動機づけになっている部分、3年生の宇宙のガスであるとか、それから2年生の宇宙から見た日本列島であるとか、1年生で、天ぷらを揚げるといふ、そういう印象的な部分がありますので、そこら辺りは、子どもたちがよく考えられるような工夫をしているなと思いました。
山本教育長職務代理者	では、皆様のご意見をお聞きして、先ほど言いましたように本市の子どもたちには1つでも多く学んで発展的な学習することも必要であり、何よりも自然現象や自然事象について探究して、科学的思考力を育成する学習の工夫というのが求められているかと思っています。身近な自然や生活から興味関心を引き出す工夫、対話を通して協働的な学びの工夫、デジタルコンテンツなどを通して一人一人の学びを深める工夫などの観点から、東京書籍か啓林館のどちらかが本市には相応しいと考えますが、いかがでしょうか。
山本教育長職務代理者	(「異議なし」 の声) それでは2社に関して、さらにご意見ありましたらお願いします。

佃委員	まず、東京書籍ですが、デジタルコンテンツが大変充実しておりまして、導入のスタート動画があったり、実験の手順や化学変化や、ミクロの世界まで、リアルに視覚確認できるのがとても良いと思いました。シミュレーションでは、つまずきやすい課題について繰り返し学習した後、確認のテストができるといった工夫があって、個別最適な学習ができるような点も良いと思いました。 啓林館では、学ぶ前にトライ！、学んだ後にリトライ！と、単元を学ぶ前後で、どのように考え方が変わったのかをふり返りシートで確認できる工夫がありました。答申にもありましたけれども、レーダー解説の練習等では、解説動画が視聴でし、理解度に合わせて学習できるように工夫されていました。また、観測のスキルでは、細かいデータを読み取ったり、グラフに示したりと、学力テスト等でも問われる力の育成にも配慮されていると感じました。
河田委員	東京書籍ですが、デジタルコンテンツが豊富で、子どもが興味をもって主体的に学習に取り組むことができる点が良いと思います。また、研究者へのインタビュー記事や仕事図鑑は理科の学習と社会の関わりについて知ることができて良いと思いました。 啓林館については、あくまでも個人的な感想なのですが、教科書を見た瞬間に、中を見てみたいと思いました。内容にはあまり関係はありませんが、そういった教科書を手にしたときの感動のようなものが一つ大切かなと思います。内容につきましては、探究実験の活動は友達と協力しながら、実験方法を考え、答えにたどり着くまでの過程で、主体的・対話的で深い学びができ、また、課題を解決することで達成感を得られ、自己効力感を高められる大変良い活動だと思いました。
山本教育長職務代理者	私も東京書籍につきましては、導入から、あと具体的な学んだこともチェックできるというところまで一貫して、うまく構成された教科書であるという印象を持っています。特に、導入の写真がダイナミックで、ビジュアルシンキングで子どもたちの意欲を喚起していると思います。それから1年生のところで、例として、つまずきやすい内容というのを解説しています。この辺りは子どもたちが自分の学んだことをチェックしながら、どういうところを注意しなければならないかというのが、よくわかるかなと思いました。 啓林館ですが、先ほど言いましたように、やっぱり探究する力の育成というのは、他の教科書と比べて、もう卓越しているという印象を持っています。実験のところでも探究実験というのをとりあげて、これは巻末にシートがあり、なおかつデジタルで、探究シートに連動していくということで、デジタルの部分も含めて使いやすいかなと思いました。また、コラム等でも、結構なたくさんの日常生活との関連を出して、日常生活の中における理科的な関

(山本教育長職務代理者)	心を深めようという部分、例えば、深めるラボっというのは、57箇所もありまして、たくさんあれば良いというわけではないのですが、それ以外にも仕事であるとか、防災であるとか、減災であるとか、そういうようなコラムがたくさんありますので、そういうところでいろんな関心を深めていくことができるのではないかと思います。
山本教育長職務代理者	それでは皆さんの意見をまとめたいと思います。 本市の子どもたちの実態に合わせて、基本的な事項から発展的な学習への展開がしやすいこと、単元の導入で探究の意欲を喚起するという工夫があること、さらに協働的な学び及び個別最適な学びに適しているという観点から、啓林館がより相応しいと思われます。 啓林館を採択することに決定してよろしいでしょうか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	異議なしと認め、理科の教科書は啓林館の教科書を採択することとします。 続いて、音楽に入る前にここでお諮りします。 音楽については、音楽一般と、その次の器楽合奏、これを合わせて採択をしたいと思いますが、いかがでしょうか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	異議なしと認めます。 続いて音楽の一般、器楽合奏についてお願いします。 答申の14ページ及び15ページをご覧ください。 選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	音楽の一般、器楽合奏、あわせて説明申し上げます。 まず教育出版につきましては、始めにある「学習MAP」が図になっていて生徒に分かりやすく、目標と教材が一致した形になっており、学習の流れをつかむのによく適しています。また、器楽におきましては、写真が大きく情報も整理されていてわかりやすく、子どもたちの実態によく適しています。 次に、教育芸術社につきましては、変声期の声の出し方についても詳しく明示されており、より専門的な指導によく適しています。器楽におきましては、二次元コードは豊富にあり、音源を聞きながら学ぶことに適しております。
山本教育長職務代理者	音楽の一般、器楽合奏は2社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。

佃委員 河田委員	まず、教育出版ですが、巻頭で今話題のユーチューバーでもあり、研究者でもあり、ピアニストの角野隼斗さんの写真とともに、好奇心を大切にというメッセージを掲載し、表紙から1ページ開けて、表紙のメッセージや楽器を紹介しているところはとても良いと思いました。また、歌唱、鑑賞、創作、各領域について学習マップで何を学ぶのかが、一目でわかるように示されている点も良いなと思いました。教育芸術社では、各領域について、観点別に学ぶ内容を示し、それが教材とどう繋がっているのか、わかりやすく示されています。また、歌唱の指導で一番気を使うのは、変声期の問題だと思うのですが、答申にもありましたように、大変詳しく扱われており、専門的に指導することができると思いました。 あとは項目ごとに両者を比較していたのですが、まず夏の思い出や赤とんぼなどの共通教材につきましては、教育出版では、ページの中に多くの情報が掲載されており、作曲者についてなど、同時に学ぶ工夫がされていました。 教育芸術社では、心の歌というテーマで、美しい写真とともに歌詞があり、めあてを意識しながら条件を思い浮かべて表現できるように工夫されていました。 創作の分野では、教育出版では1年生で鳥の声など、自然の素材を扱っており、Let's Try!では、言葉を用いたラップに挑戦するなど、幅広く取り扱っていました。 教育芸術社はLet's Create!でグループで音素材を選んで、図形でリズムなどを表現し、仲間とともに、楽しい活動に取り組めるよう工夫され、創作を扱う分野も多く、この教科書ではいろいろな創作活動ができると思いました。 器楽の方では、どちらの会社でも鑑賞教材も紹介されており、学習する楽器や一般の教科書と関連づけて学習できるように考えられていますし、各教材に学習のポイントが示されていて、音楽的な見方、考え方を働かされた学習活動ができるように工夫されていました。 リコーダーで比べてみますと、教育出版ではソプラノリコーダーが使われていて、小学校からのスムーズな導入につながられていました。 教育芸術社では、リコーダーの基本が3ページにわたって詳細に扱われていて、さらに演奏時の音の響かせ方まで掲載されている点では、個別最適な学びに繋がるなと思います。 ギターの指導では、教育出版社ではポジションや奏法などは写真で示されているのですが、教育芸術社ではそれらはイラストで示されていて、こちらの方がシンプルでわかりやすいのではないかなと思いました。 始めに教育出版です。学習マップで、各教材を歌唱、鑑賞、創作の3つの領域に分け、学習の進め方や各教材を学ぶ際の目標が示されている点が良いと思います。歌うための準備では、歌う時の姿勢や口の形などが大きなイラ
--	--

(河田委員)	ストでわかりやすく描かれていて、子どもたちが主体的に学習に取り組めるのではないかと思います。また、大きな写真を掲載したことで、曲のイメージがしやすくなり、曲に対する情報がわかりやすく整理されている点も良いと思いました。器楽合奏の方ですが、巻末のギターコード表に弦の押さえ方が写真で示されていて、子どもたちがわかりやすい工夫がなされていました。また、楽器の写真が大きく掲載されていて、楽器の構造や構え方理解がしやすく良いと思います。 次に、教育芸術社です。巻頭の学習内容を記載したページでは、それぞれの教材を歌唱、創作、鑑賞の3つの領域に分け、どのように学習するのか、まとめてありました。各教材には、音楽を形づくっている要素が示され、学習の際に気をつけるポイントの詳細がわかりやすく、深く学べる部分がなされていると思います。生活や社会の中の音や音楽で、身近に聞こえる音や音楽が果たす役割を知ること、音楽に対しての興味や関心が高まるのではないかと思います。器楽合奏については、楽器の写真が大きく掲載され、一つ一つの説明が丁寧なされているので、子どもたちが楽器の行動や構え方の理解も深めやすいと思いました。また、演奏方法の説明も丁寧なため、難しい曲にも挑戦しやすいのではないかと思います。
山本教育長職務代理者	私も2社読ませていただきました。 まず、教育出版ですが、先ほど選定委員長も言われたように、始めの学習MAPというところが、目標と教材が一致ということで、生徒には非常にわかりやすいものはないかなという印象をもちます。また佃委員も触れられましたけれども、Let's Try!というところで、1年生では、指揮であったり、2年では、能とかの体験をさせる。3年では「勸進帳」を歌おうという、そういう生徒たちにとってもうこういうことができたらいなという関心と呼ぶような作品がとりあげられたかなと思います。また全校合唱ということで、1年2年3年でそれぞれ、3年では混声の4部までとりあげているところには、目新しい感じはしました。 教育芸術社の方ですが、これも選定委員長が言われましたように、専門性が高くて、より発展的な音楽を学べるような教科書かなと思っています。目標に詳しくわかりやすいということを挙げておられますけれども、実際、各学年の導入を見ていきますと音楽って何だろうという形で導入されて、この部分はすごく、良かったと思います。ただ著作権については、教育出版の方が2、3年の上で扱っていましたが、教育芸術社は1年生の2ページで扱っているというところで扱いが少し軽いなという印象はもっています。 それから器楽ですが、これにつきましても、教育芸術社につきましては、いろいろ言われたリコーダーの部分も詳しいのですが、打楽器について、非常に丁寧にとりあげているというところで、いろんな楽器についての興味関

(山本教育長職務代理者)	心をもっているところでは、打楽器を詳しく取り上げることも非常に必要かなと思いますし、あと世界の楽器を教科書と含めてとりあげているところが、教育芸術社の特徴かなと感じています。
佃委員	音楽科では、I C Tとの連動によって、さらに授業を豊かにすることができると思うのですが、Q Rコードを用いて、一般の教科書では、教育出版では、音源や映像を主張したり、ワークシートをダウンロードすることができるようになっていました。また、教育芸術社では、これはとても良いなと思ったのですが、さらにタブレット端末を使って、創作活動をすることができるように工夫されている点は、これは学校意見書等でも評価されていましたが、とても良いなと思いました。 一般の方ですけれども、箏楽器についてです。特に教育芸術社では、琴、箏の双方について、6種類も詳しく紹介した後で、マイメロディーで箏を使った旋律の創作や楽譜づくりまで挑戦できて、これで日本の音階を体験することができる点では、とても良い活動だと思いました。また、三味線について学んだ後で、実際の歌舞伎の舞台の横で演奏している様子を学ぶなど、日本の伝統音楽を自然に学べるように、工夫されている点が良いなと思いました。アンサンブルの方では、教育出版では、巻末のL e t ‘ s P l a y !では、美しくアレンジされた木星など、合奏アンサンブルの曲が多く掲載されていて、教育芸術社では、巻末でいろいろな楽器の旋律を演奏することができて、小さな声の歌など、ポップでリズムカルな曲にアレンジされた合奏曲は、合奏すると、とても楽しいだろうなと思いました。
山本教育長職務代理者	では、音楽の一般及び器楽合奏と合わせて皆さんの意見をまとめますと、多様でより専門性など音楽の広がりがある、また生活や社会の中で古典などを含めて音楽文化と関わる工夫、そして、I C Tの活用などを通して楽器演奏への興味関心を喚起するという観点から、教育芸術社がより相応しいと思われませんが、教育芸術社を採択することと決定してよろしいですか。
山本教育長職務代理者	(「異議なし」 の声) 異議なしと認め、音楽の一般及び器楽合奏の教科書は教育芸術社の教科書を採択することとします。 続いて、美術についてお願いします。答申の16ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	まず、開隆堂出版につきましては、作品制作につながる発想、構想の練り方が重点的に記されていて分かりやすい工夫がされています。 次に、光村図書出版につきましては、教科書内の各ページの二次元コード

(鉄選定委員長)	から生徒作品を多数見ることができ、イメージを広げるのに適しています。 最後に、日本文教出版につきましては、「造形的な視点」という項目が各ページに記されているので、作品制作をするにあたって生徒自身が発想を広げやすいよう工夫されています。
山本教育長職務代理者	美術は3社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。
佃委員	美術ですが、まず開隆堂出版では、この教科書でまず圧倒されたのは、表紙の質感ですね。ゴッホの筆遣いや絵の具が塗り重ねられた迫力まで、手探りで感じることができ、とても面白いなと思いましたし、斬新だなと思いました。各章にキャラクターの吹き出しでわかりやすく、美術の時間に何を学ぶのかを解説している点も良いなと思いました。 続いて、光村図書出版では、最初のうつくしい！を探してみよう、私たちに問いかける美術、美術と未来がどうなるのかという鑑賞でSDGsも扱っていて、とても良いなと思いました。2，3年生のうつくしい！では、うつくしいことについて、谷川俊太郎さんの文があり、うつくしいは新しい生き続けていく力があると鑑賞から気づくことへのメッセージ性がある、生徒にも伝わるのではないかなと感じました。また同様に、鑑賞のページ、体感ミュージアムでは、物語を想像して話し合ってみようと、協働的な学びから表現を見つけ出す工夫がある、とても良いなと思いました。ピカソのゲルニカのページには、制作の写真とともに迫力がある、左の戦争の写真とあわせて、胸を打つものとなっています。 続いて日本文教出版では、学びの目標には存命的な視点、技能に関する目標、そして発想や構想、鑑賞に関する目標、主体的に学習するための目標が掲げられているので、どのような力をつけるのかがわかって、取り組みやすいなと思いました。巻頭の前大の少女の絵、習作との比較等で、五つの見方考え方へ誘導している点も良いなと思いました。
河田委員	始めに、開隆堂出版です。エンボス加工された表紙は見ても触れても楽しむことができ、それ自体が美術の作品であり、教材の一つになるようなすてきな表紙だなと思いました。1年生が美術ではどのような学習をするのか、理解できるように、導入のページが設けられていて、図画工作から美術へ無理なく入れる点が良いと思います。また、二次元コードからワークシートがダウンロードでき、書き込みをすることで、学びを深める部分がなされている点が良いなと思いました。 次に、光村図書出版です。みんなの工夫で作品の制作過程を見ることができ、イメージを広げる工夫がなされていました。体感ミュージアム、「最後の晩餐」を鑑賞しようでの作品の大きさがよくわかる写真のように、子ども

(河田委員)	たちが興味を持ちやすい工夫が随所に見られ、美術が苦手な子どもでも、無理なく学習に取り組めるコンテンツが設けられていて良いと思います。また、中学3年間で必要な資料を別冊にまとめてあるため、知りたい情報が探しやすく、便利に使えるのではないかと思います。 最後に、日本文教出版です。各項目の学びの目標が示されているので、どの点に気をつけて、何を目標に、どう学習に取り組めばよいのかがわかりやすいと思います。 各ページに記載されている造形的な視点は、作品制作をするにあたって、子どもが発想がしやすく、また、各巻末にある学びを支える資料は、発想や構想を引き出す部分があるのではないかと思います。
山本教育長職務代理者	私も三社を読ませていただきまして、まず開隆堂出版ですが、デザインや工芸のところで作ること、木や粘土、特に1年生の部分ですが、このところが詳しくて、生徒の作品が多いということが非常に良かったと思います。ただ、どの会社も一緒ですが、4ページの折り込みで、想像、鑑賞する題材を大きく取り上げている部分があるのですが、開隆堂出版に関しましては、4ページにする意味があるかなとちょっと疑問を感じたような内容がありました。途中で切れているという、せっかく4ページの折り込みしたのにという印象を持ちました。表紙は大変良くて、イラストも多用していますので、子どもたちはとっつきやすいとは思いますが。 光村図書出版ですが、先ほどもありましたが、鑑賞にすごく力を入れているところで、QRコンテンツの工夫が見られました。2, 3年生の96ページに、阿修羅像を360度で見せるというようなところもありますので、そういう部分が、QRコンテンツであるからこそ、できる部分かなと思いますので、それは非常に良かったと思います。また、日本の絵画を楽しむ5つのキーワードというのが、日本の美意識に触れるという点では、すごく良いページだったと思います。 もう1点は、美術の苦手な生徒への対応がされています。基本技能や、用語の使い方までに渡って苦手な生徒へ対応していますので、ちょっと美術が苦手な生徒も使いやすい部分があるかなと思います。発想の仕方が様々ですので、いろいろ考えるきっかけとなる工夫が随所に見られたという印象を持っています。 日本文教出版ですが、鑑賞の入り口、造形的な視点というところで導入とか、具体的な問い、こういう部分で生徒が非常に美術的な発想を広げやすい工夫がされていると思いました。もう一つ注目したところは、各単元の始めに鑑賞作品を考えさせています。こういうところが非常に大事ですし、日常的な美を重視しているところも良かったかなと思います。ただ、作品の資料が光村図書出版に比べては非常に少ないですし、学習のポイント等で構想を練ろうという部分があるのですが、それについても光村図書出版の方がより

(山本教育長職務代理者)	具体的であったなという印象を持ちました。
山本教育長職務代理者	それでは、美術について、さらに何かご意見ございますか。
佃委員	開隆堂出版の鑑賞で、1年生の風神雷神のページを開くと、伊藤若冲の壮大な屏風絵があって、そこから江戸の様々な美術文化という、そういった展開は、生徒にとって大変わかりやすく面白いだろうなと思いました。2, 3年生の印象派の表現の広がりでは、点描画や渦巻きの表現を学習した後、ゴッホやシニャックの絵を鑑賞するなど、光の表現に気づく仕掛けは自然で良いなと思いました。続いて、時代と文化を超えて、日本画が西洋に影響を与えたそのジャポニズムなど、尾形光琳とクリムトを比べて気づけるような、そういった工夫も分かりやすいなと思いましたし、美術史の扉年表に芸術作品が日本と西洋をともに並べてあって、非常にわかりやすいと思いました。 光村図書出版では、1年の風神雷神では、まず仏像の迫力を鑑賞し、見開きを開けると、俵屋宗達の屏風絵が現れてきて、立体と平面とを比較する仕掛けがとてもわかりやすいなと感じました。続く体感ミュージアムでさらに詳しく彫刻と屏風の作品について学べるようになっており、吹き出しをヒントに学習を深める工夫がありました。また、デザインのページでは、ポストカードから、看板まで、様々な文字の工夫に気づき、ロゴマークや身の回りの紋様など幅広く知ったうえで、カードづくりに挑戦という活動につなげる点良かったです。職務代理も仰っていましたけれど、紙の質感を変えて、5つのキーワードで、日本の絵画を紹介していた、原寸大の鳥獣戯画や富嶽三十六景を鑑賞できたり、余白や構造を学べたりして、このページは大変充実しているなど、またさらに、ゴッホと浮世絵をつなげている構成も良いなと思いました。
山本教育長職務代理者	では美術につきまして、皆様のご意見をまとめますと、鑑賞から生徒自身が発想や構想を考える工夫、美術の苦手意識への対応、鑑賞をより深める工夫、二次元コードでの生徒作品や鑑賞方法の工夫があるという観点から、光村図書出版がより相応しいと思われますが、光村図書出版を採択することと決定してよろしいですか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	異議なしと認め、美術の教科書は光村図書出版の教科書を採択することとします。 続いて保健体育についてお願いします。答申の17ページをご覧ください。

(山本教育長職務代理者)	選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	まず、東京書籍につきましては、性の自画撮り被害の資料が取り扱われており、性の多様性についてイラストを交えてわかりやすくまとめているなど、現在の中学校における諸問題と合致している点が極めて適切です。 次に、大日本図書につきましては、どの章も左ページが文章、右ページが資料に統一されているためわかりやすい配列になるよう工夫がされています。 また、大修館書店につきましては、ストレスへの対処方法など丁寧に扱われており、子どもたちの実態に適しています。 最後に、学研につきましては、ストレスへの対処資料として、ストレスチェックシートが記載されていたり、適正体重を調べることができるコーナーがあったり、自分の心と身体に向き合えるよう工夫されています。
山本教育長職務代理者	保健体育は4社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。
佃委員	東京書籍では、見開きでこれまでの学習をもとに見つけるで課題をつかみ、学習課題で今日の課題を確認する、さらに課題の解決や？マークを活用する、広げるといった流れで、生徒自身が課題を解決できるよう、学習活動が行える工夫が良いなと思いました。また示された多くの資料がイラストとともに、生徒にとって身近でわかりやすいものとなっていました。 大日本図書では、表紙裏の目次が見やすく、つかもう、やってみよう、話し合ってみよう、調べてみよう、活用して深めようという学習活動の流れがとてもわかりやすいと思います。 大修館書店では、見開きで、課題をつかむから身につける・考える、まとめる、ふり返るという流れで、簡潔に学習できるようになっていて、毎時間の学習の整理がしやすいと思いました。 学研では、紙面が見やすく、学びを生かすでは、学習した内容を活用して、グループで意見を交流する活動が充実しており、協働的な学びができるようになっていました。
河田委員	始めに、東京書籍です。見つける学習課題、課題の解決、広げるまでの学習内容が見開き1ページに配置され、学習の流れがつかみやすく、子どもたちが見通しを持って進められ点が良いと思います。各章が定型デザインで統一され、ページの左半分は本文、右半分に資料を配置したデザインは、本文を読みながら資料の確認がしやすいと思いました。学習内容と、自分の生活を結びつけられる内容が多く取り扱われているので、自分のこととして考え、

(河田委員)	学習に取り組むことができるのではないかと思います。選定委員の答申にもありました通り、性の多様性などについて詳しく掲載されている点は、人権に対する配慮がなされていると思います。 次に大日本図書です。巻頭に、保健体育の学習が夢の実現に向けて大切であるということ、写真を用いてまとめてあり、子どもたちが学びに向かう姿勢を整えられるように工夫されていると思いました。各章とも左ページが文章、右ページが資料と配置が統一されているため、どこに何が記載されているのかわかりやすく良いと思います。また、様々なグラフや統計資料が多く掲載されているので、理解が進みやすいのではないかと思います。 次に、大修館書店です。見開きで、課題をつかむから学習のまとめの流れになっていて、毎時間、学習の整理がしやすいように工夫されていると思います。身の回りで起こる出来事や生活につなげやすい内容がとりあげられていて、自分のこととして考えられる点が良いと思いました。また、性の固定観念や多様性などについての資料や課題が多く取り扱われていて、人権に対する配慮がなされていると思います。 最後に学研です。見開きで、ウォームアップから学びを生かす流れで、学習内容が配置され、学習の最後に、主体的に学習に取り組むことができたかを、とりくメーターに書き込むことで、自己評価できるようになっている点は、子どもたちのやる気を引き出すきっかけになるのではないかと思います。キャラクターを使って、学びを深めたいポイントを示していて、子どもたちが親しみやすいつくりになっていると思います。
山本教育長職務代理者	私も4社を読ませていただいて、まず、東京書籍ですが、自分の生活につなげるという、これは学校意見書及び答申の中にも書かれているのですが、そういう項目があって生活と保健体育を結びつけているという点では非常に良かったと思います。また、内容項目のバランスが非常によくとれた教科書だと思います。個人的な課題として、多様性、共生から、性の多様性、心の健康等、いろいろとキャリア教育まで含めて、取り入れておられますが、残念なのは、新型コロナウイルス感染症については、編集の時期もあるかと思うのですが、簡単に触れるだけで、ほとんど触れておられないところは、他の出版会社と比べては残念と思いました。各章の始めに保健体育の職業という形で、そういう職業感と結びつけて、子どもたちの関心を喚起するようにされているのは、非常に良かったと思っています。 大日本図書ですが、一番良かったのは、心肺蘇生法が4ページで写真で詳しくされているのは、今の現在の課題としては一番大きなことですので、これは非常に良かったかなと思いますが、これも編集、検閲の関係かと思いますが、東京オリンピックパラリンピックが2020年の夏となってしまうので、その部分は残念と思います。 大修館書店ですが、口絵に共生社会をつくるために、よりよい未来に向け

(山本教育長職務代理者)	てということで、すごく、意識的に構成をされており、この部分はすごく良かったなと思います。それから学習のまとめのところでは、常にいろんな問題提議を行って、グループ活動グループ討議をできるような工夫をされている部分が、すごく良かったと思いました。 学研につきましては、現代的な課題、多様な学びということがよくわかる教科書で、生きる力自ら学び自ら考えるということが、非常に明確になったなと思います。章末の探究しようよ！、章のまとめなど、そういう部分については、個に応じた学びが推進できるようになっていますし、LGBTQであるとかSOGIであるとか、それからいじめ、そういう現代的な問題についてもとりあげられていましたし、何よりも、交通事故とか環境汚染の現状をイメージし、そういう写真から生徒たちに考えさせるという工夫は、優れているという印象を持ちました。
佃委員	本市でも課題だととらえられている喫煙の単元について比較してみました。 良かったところは、東京書籍は喫煙率の変化について気づくところから始まって、有害物質がまとめられた表や結果の写真など資料で授業を深める工夫がされており、住んでいる地域の受動喫煙防止の取り組みを知るという活動で締めくくられているところがとても良いと思いました。また、大修館書店では、受動喫煙についても詳しく解説されており、示されたグラフとともに、周りの人の喫煙による影響が認識できるところが良いと思いました。
山本教育長職務代理者	それでは皆様のご意見をまとめますと、自分自身の生活につなげる内容の明確さ、多様性・共生社会を求めて今日的課題に対応し、新しい学びに取り組む工夫、内容項目のバランスの観点から、東京書籍がより相応しいと思われませんが、東京書籍を採択することを決定してよろしいでしょうか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	異議なしと認め、保健体育の教科書は東京書籍の教科書を採択することとします。 続いて技術・家庭の技術分野についてお願いします。答申の１８ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	まず、東京書籍につきましては、主体的・対話的で深い学びにつながる場面として考えてみよう、やってみよう、調べてみよう、話し合ってみようなどの活動を取り上げ、協働して比較検討するための発問を設けるなどよく工夫されています。 次に、教育図書につきましては、各章でのスゴ技、技ビトで技術家の思い

(鉄選定委員長)	を知り、興味関心につなげられるよう工夫されています。 最後に、開隆堂出版につきましては、小学校や他教科とのつながりを各内容のページで確認できるよう工夫されており、学年・教科横断的なカリキュラムが立てやすく極めて分かりやすい工夫がされています。
山本教育長職務代理者	技術・家庭の技術分野につきましては3社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。
佃委員	技術につきまして、各社ともどのような問題を解決するか、技術の学習に見通しを持って取り組めるよう工夫されていました。 まず、東京書籍では、技術の見方、考え方について、最適化の窓をキーワードに、社会からの要求、安全性、そして、環境への負荷、経済性と様々な視点から考えられている点が良かったです。また、問題解決の成果の評価、改善、修正では、設計、製作、評価改善、修正のサイクルで取り組みを進められている点が工夫されていて、一貫しているなと思いました。 教育図書は、技術をいかそうの1問題解決にチャレンジではLEDを試みようや、ロボットハンドをつくってみようなど、身近で面白そうな取り組みから、人型二足歩行ロボットや、ハンディ扇風機、さらにロボコンチャレンジまで、大きくつなげているのが夢があって、面白い活動でつづられているなと思いました。 開隆堂出版は、技術の見方、考え方について、各章の始めに、図でわかりやすく示されており、冒頭では、ボールペン、はさみなど、身近なものから仕組みの最適化を考えられるような仕掛けはとても良かったです。学習の流れを4コマ漫画で紹介しているのは、生徒にとってわかりやすく、問題解決の流れでは、問題の発見と課題の設定、設計製作、評価改善と、左から右へ見開きでイラストを使って、わかりやすく示していて、学習活動が、一つ一つ丁寧に示され、学び方を学べる工夫がされていました。情報の技術では、情報セキュリティ、情報モラル、知的財産保護まで充実しており、プログラミングについても、処理の仕組みからインターフェースまで8ページにわたって丁寧に扱われている点が良かったです。
河田委員	始めに、東京書籍です。1から4までの編が配列され、ガイダンスでは、技術の見方や考え方などについて、漫画やイラストで示され、技術学習の理解につなげ、学習に取り組むやすい工夫がなされていました。 また、テックラボでは、安全に実習を行うポイントや、材料の加工方法などを写真やイラストを用いてわかりやすく示しているので、習得がしやすく、また、初めて工具を使う子どもも安心して実習に取り組めるのではないかと思います。 次に教育図書です。AからDまで4つの編が配列され、日常の問題解決か

(河田委員)	ら社会全体の問題解決まで段階を踏んで学べる構成になっていました。学習のめあてとふり返るのキーワードが対応していて、押さえるべきポイントが明確にされている点が良いと思います。また、スゴ技、技ビトでは、子どもたちに身近な製品や、人気のあることにまつわる製品に込められた技術や職人、生産者の思いを紹介し、子どもたちが興味、関心を持って学べるように工夫されていました。 最後に、開隆堂出版です。ガイダンスで技術の見方・考え方などをつかんでから、単元に入ること、見通しが立てやすく、学習に取り組みやすい工夫がなされていると思いました。また、1年生が中学校で初めて学習する技術について、ひみつ道具は実現している？で、ドラえもののひみつ道具を例に挙げ、技術の力で、夢と道具が現実のものになっていることを示している点は、子どもの興味関心を高め、未来への希望を持って学習に取り組めるのではないかと思います。また、子ども自身も経験したコロナウイルスによる社会変化に関する記述もあり、そこにも様々な技術の力も関わっていたことを学ぶことで、技術学習の重要性を知ることができて良いと思いました。
山本教育長職務代理者	それでは私の方から、まず、東京書籍ですが、実態に応じた実験、あるいは体験的な学習活動を意識されて、そういうことに関する問題解決例がすごく多いと思います。先ほど佃委員も述べられましたように、最適化を意識して各章でそういう工夫をされています。また、コンピューター関係で、プログラミング教育がすごく充実をし、資料に基本的な操作なども載っていて、非常に重視されているなと思いました。問題解決の中には、あったらいいなというものを形にするということで、この発想が、子どもたちに応じた、すごく使いやすい、良い発想ではないかと感じました。 教育図書ですが、主体的に問題解決に取り組むという姿勢で、編集をされているように思います。興味関心を持たすような工夫として、導入に、技術を見つめようという形で、コラムであるとか、あるいはスゴ技であるとか、技ビトであるとか、先輩に聞くとか、そういうような技術者の思いを伝えるような項目が20箇所ほどあり、これについては、子どもたちも関心持つだろうなと思いました。あと、別冊のスキルアシストという実習用の冊子があります。ただこれについては、実際に活用は可能なのかなということについては、現場の先生方の使い方によるかなと思います。このスキルアシストの中に、コンピュータープログラムに関する部分が10ページほど書かれていますので、これについては、子どもたちの学びが深まるかなと思います。あとは直接関係がないのですが、イラストの服装について、学校意見書の方にこういう意見書がありましたので、紹介します。表紙の服装が男女ともパンツスタイルになっていて、それが良いという意見です。実は他の教科では、服装への配慮が必要であるという指摘のある教科もありましたので、教育図書の服装のイラストについては、そういう意見が学校意見書にあったの

(山本教育長職務代理者)	で、ご紹介をしております。 開隆堂出版につきましては、基礎基本の習得から、社会、環境、技術について、理解を深めるという観点で、作っておられますので、わかる、気づく、使える、興味が出るという部分が、子どもたちにとっては、非常に興味を持ちやすい教科書かなと思いました。イラストが少なく、実際の写真、例えば発電などの部分については、他社はイラストでやっていますが、開隆堂出版は実際の写真を、掲載されている。そういう部分もあります。また、各単元で、実際の実習の課題をやってみようとか、問題解決のふり返しシートをつけたりということで、より子どもの興味を持つような教科書になっているかなと思います。 ちょっと3社を比較しますと、社会の発展と情報の部分については、東京書籍が他の2社に比べて、技術の工という、そういうページとか資料があることによって、他のところの三倍くらいの分量をされておられます。 それから最終の編である5編にあたる部分ですけれども、東京書籍は、統合的な問題解決。それから、教育図書は、夢をかなえる技術。ドローンとかの話ですね。開隆堂出版は技術分野の出口というところで、統合実習であるとか、農業技術とかで、そういうよくわかる工夫をされています。この部分については、開隆堂出版が他社の2倍から1.5倍ぐらいのページを割いて述べておられます。 学習の流れにつきましては、開隆堂出版が非常に丁寧に、学びのプロセスをよく理解できるような配慮をしています。他の教科書会社については、非常に簡単に、この辺で学ぶことができるというような感じで、書かれている部分が多いのですが、今言いましたように開隆堂出版は非常に丁寧であったと思います。
山本教育長職務代理者	それでは、皆様のご意見をまとめますと、基礎的、基本的な知識、技能の習得から、社会や環境への関心、技術的な関わりを深める内容の工夫、多様性など、身近なものの興味関心から、将来的な技術への関心意欲を喚起している点、ソフトウェア、コンピューター教材の豊富な点から、開隆堂出版が本市には相応しいと思われますが、開隆堂出版を採択することと決定してよろしいですか。 (「異議なし」の声)
山本教育長職務代理者	異議なしと認め、技術・家庭の技術分野の教科書は開隆堂出版の教科書を採択することとします。 続いて、技術家庭の家庭分野についてお願いします。答申の19ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。

鉄選定委員長	まず、東京書籍につきましては、6編で構成されており、各節の冒頭に目標が示され、毎時間の学習課題、節末に、まとめよう、生活に生かそうが設定されているなど、課題解決の学びによく適しています。 次に、教育図書につきましては、生徒の理解や興味・関心に応じて、学習を進められることができるよう、発展的な学習内容はマークで明示されていて分かりやすい工夫がされています。 最後に、開隆堂出版につきましては、各項目に、やってみよう、考えてみよう、調べてみよう、話し合ってみようがあり、学習の進め方の理解しやすくよく工夫されています。
山本教育長職務代理者	技術家庭の家庭分野は3社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。
佃委員	各社ともに安全に調理や製作などの実習を進めるため、事故防止に留意するよう配慮されていると思いました。 まず、東京書籍では、始めのガイダンスでの自分の生活チェックでは、1年生の最初と学習の後で、意識の変化を記録できるような工夫が良いと思いました。調理では、特に魚の調理について詳しく載っておりまして、QRコードの調理工程が動画にも、教科書にも載っていて、失敗例まで載っている点が、好感が持てました。さらに、和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたということが取り上げているのもあったと思います。また、ネット社会における消費者としての自覚では、契約について、支払い方法について、クレジットカードについてなど、丁寧に扱われていて、金銭感覚や消費者トラブルまであって、中学生にまでも多い相談事項が載っているのも良いと思いました。意思決定のプロセスでは、商品の選択と購入のために何を考えれば良いのか、購入のシミュレーションとしていろいろ学ぶことができる点が良かったです。 続いて、教育図書ですが、巻末の学習のふり返りが、簡潔にまとめられて良いと思いましたし、めあて、ふり返る等があり、ふり返るでは、自己評価ができる点があって、わかりやすいと思いました。 開隆堂出版では、始め、学び方と身につけたい力では、主体的・対話的で深い学びが意識づけられており、人、物、事に関わる力など、わかり易く示されていました。調理では、実習例の写真が大きく美しく、調理工程の写真はわかりやすく、持続可能な食生活、飢餓の問題からフードバンク、食料自給率まで、幅広く扱い、話し合う活動につなげている点が良かったと思います。
河田委員	始めに、東京書籍です。学習内容に関連するせいかつメモは、短い文章で読みやすく、子どもが興味を持てる内容になっていて、学習に生かせる点が

(河田委員)	良いと思います。ページレイアウトを見やすく整理し、実習のページは作業工程がよくわかるように作られていて、子どもたちが実習に取り組みやすいのではないかと思います。また、サステナブルクッキングに挑戦しようや、衣服のリフォーム、リメイクは、すぐに日常生活に生かせるSDGsの学習だと思いました。 次に、教育図書です。つなぐ、つながるをテーマに、三つの編で構成され、各項目は、めあて、学ぶ、ふり返る流れになっていて、ふり返りでは、ABC3段階の自己評価で、子どもが自身で理解度をより細かく確認できる工夫がなされていました。また発展的な学習内容にはマークがついていて、子どもの理解や興味関心に応じて学習を進められる点が良いと思います。 最後に、開隆堂出版です。家族と家庭生活、衣食住の生活、消費生活と環境の3つの内容で学習が進んでいくように構成されていました。ガイダンスでは、自立と共生についてまとめられていて、家庭の学習で必要な自立と共生の正しい理解のもとに学習に入れる点が良いと思います。各編の最後にある学習のまとめでは、学習内容を整理することができ、また子どもが自身の理解度を確認できる点が良いと思いました。
山本教育長職務代理者	まず、東京書籍ですが、読ませていただいて、自立と共生ということが、非常に明確になっていて良かったと思います。特に共生への配慮では、ダイバーシティへの配慮であるとか、あるいは自分らしく生きる、そういう取り組みの中で、学校の制服についてプロに聞くという部分で取り上げられているのですが、こういうところが子どもたちには非常に繊細に映るなと思いました。 それから、興味関心を広めていくための学びというのが、他社の出版会社でも多かった。これは発展的な部分に当たると思うのですが、こういうところが東京書籍としては良かったかなと思います。ただ、他者理解については、高齢者の問題はよく扱っていただいているのですが、それ以外については、やや不十分だなという印象を持ちました。 教育図書ですが、社会あるいは環境との関わりを学ぶという点が非常に明確になっていたと思います。そういう部分から見ますと、導入、本文でやってみよう、それから学びを生かすでまとめようというところで、特に確認して考えてまとめるという、3観点ですか、そうした観点をもって、とりあげられている部分については、非常に効果的であると思いました。また実習例が豊富で、地域であるとか、和食をとりあげて、そういう伝統食について増えておる部分もありましたので、ここらあたりも、生徒の関心と呼ぶかなと思います。 ただ、3ページから、これからの私と書かれている部分があるのですが、図示で示されていますが、これについては、これから私は、こういう人ができて結婚して就職をしてというような、ワンパターンにとらえられるような

(山本教育長職務代理者)	イメージになっています。自立していくことであるとか、あるいは、社会貢献とかが全く触れられていませんので、これからの私の大人の姿としてはやや卒にはめた考え方で、不十分ではないかなという印象を持ちました。 開隆堂出版につきましては、技術、実践的、体験的な活動が多く、これは技術分野でもそうだったのですが、多様なまとめがあって話し合って自分自身を深めていくという、そういう部分で、非常に実習例が豊富であると思います。また中学生の取り組みという部分がたくさん書かれていて、近隣の市の取り組みもされていますし、スカートで就学するという中学生の取り組みを取り上げたりというところも、すごく良かったかなと思います。 子どもの健やかな成長のためにということで、子どもたちのことをまず第一にとりあげて、子ども100当番など、そういうところの成長を願うとりあげ方も優れていたと思います。
山本教育長職務代理者	それでは皆様のご意見をまとめます。 自立と共生を目指すという目標が明確なこと、基礎的、基本的な内容の習得に加え、家庭、社会などの発展的な学習に適している点、またデジタルコンテンツなど多様な学びに対応できるという観点から、東京書籍がより相応しいと思われますが、東京書籍を採択することに決定してよろしいですか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	異議なしと認め、技術・家庭の家庭分野の教科書は、東京書籍の教科書を採択することとします。 それでは、続いて、英語についてお願いします。答申の20、21ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	まず、東京書籍につきましては、1年の1学期に学ぶUnit4までは、各パートの最初に小中接続コーナーがあり、小学校での学びがスタートになっていて、スムーズな小中接続をめざすうえでの工夫がなされています。 次に、開隆堂出版につきましては、Retellが設けられており、英文を再構成して自らの言葉で話す活動に適しています。 次に、三省堂につきましては、各学年、学期に1つあるプロジェクト型の教材がクイズや調査、製作、プランニングなど、多様な工夫があり言語活動によく適しています。 次に、教育出版につきましては、Lessonごとに、とびらのページに内容理解、各活動のめあてが大きく書いてあり、レッスン最終ページに4段階で簡単にふり返りできるよう工夫されています。 次に、光村図書出版につきましては、Unitの内容が中学生同士の対話になっており、身近な話題が多いので、生徒にとって会話のよいモデルにな

(鉄選定委員長)	るようよく工夫されています。 最後に、啓林館につきましては、各単元 S c e n e の後の展開が、R e a d & T h i n k、L i s t e n & T h i n k、T h i n k & S p e a k、T h i n k & W r i t e に分かれており、指導する時に重点項目をしぼれるよう工夫されています。
山本教育長職務代理者	英語は6社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。
佃委員	各社とも様々な状況に合わせた多様な学びに対応できるよう工夫されていました。 小学校の接続を意識した内容につきましては、東京書籍では、1年の1学期に学ぶ U n i t 5 までは、各パートの最初に小中接続のコーナーがあり、小学校での学びがスタートになっていて、小中の接続の工夫がなされていました。 開隆堂出版では、小学校での既習語にマークをつけて新出語覧に示されているので、出会い直しができて、小中接続の面での工夫が感じられました。 三省堂では、レッスン1からレッスン4まで、プロフィールカードやクエスチョンカードを作って学ぶスタイルになっており、小中の接続の意識が感じられました。 教育出版では、1年最初のスプリングボード等で、光村出版では1年最初のレッツビーフレンズ等で、啓林館も同じ冒頭のレッツスタート等で、小学校で学んだ英語表現を復習できるようになっていて、とても良いと思いました。 開隆堂では、前回の教科書から、例えばふり返りの R e t e l l では、登場人物のセリフを考えることから、内容を復習できるように、より取り組みやすくするなどの工夫がなされていました。調査員の報告からも、R e t e l l のステップが丁寧で、生徒が吹き出しに言葉を書き込めるようになっていると評価されていました。 また、三省堂ではレッスンの最後にある G o a l A c t i v i t y では、R e a d、S p e a k などの5つの領域の目標に向かって、スモールステップで力がつけられるように工夫されていました。また、巻末にはジャンル別の単語が載っていて、自己表現に活用できると思いました。 教育出版では、本文を数時間学んだ後、T a s k でふり返って、G r a m m e r で文法事項を確認でき、下には自己評価欄があつて、どのような力がついたのかわかるような工夫があるのが良いですし、3年間を通じて S D G s を意識した内容を扱っているのも一貫していて良いと思いました。 光村図書では、ユニットの内容が中学生同士の対話で身近な話題が多く、英語の世界に入りやすいのではといった意見が選定委員会の意見等でも多く

(佃委員)	見られました。また巻末のCan-Do Listもわかりやすく、3つのユニットの学習を終えて取り組むYou Can Do It!で、これまでに学んだことを生かして、様々な表現につなげることができる。また、QRコードでスピーキングモデルやテストにトライなど、個別最適な学習ができる工夫があり、ゴールで自己評価できるところがとても良いと思いました。
河田委員	始めに、開隆堂出版です。巻頭に教科書の構成がイラストや写真で示されていて、学習の見通しが立てやすいと思いました。また、小学校での英語活動をふり返る内容があり、中学校での学習につなげていく工夫がなされていました。Review&Retellは、段階を踏んでリテリングにつなげる流れになっているため、ヒントとなる語句が多く、英語が苦手な子どもも取り組みやすいということがいえるのではないかと思います。 次に三省堂です。小中連携のページが多く用意され、中学校の学習への導入が丁寧に行われていました。小学校で学んだ語句や表現の絵辞典は一目で何を表しているのかわかりやすく、活用しやすいと思います。また、人気のあるもの調査やラジオの30秒CMなど、子どもたちがやってみたくなる楽しそうなプロジェクトがある点も良いと思いました。 次に、光村図書です。ユニットの内容が、中学生同士の対話になっていて、身近な学校生活の話題を題材として多く扱っているため、子どもたちにとってなじみやすく、学習に向かいやすいのではないかと思います。また、英語を使う力をつけるために繰り返して学ぶ学習方法を取り入れている点がとても良いと思いました。巻末のStory Retellingは、各ユニットのイラストと使用する言葉と一緒に記載され、子どもたちがリテリングしやすい工夫があつて良いと思います。 最後に啓林館です。ユニット学習のとびらにはUnit Goalが設置され、InputとOutput、両方の学習目標が示されている点が良いと思いました。ユニット末の活動では、ユニットのアウトプットの目標が話すことの場合と書くことの場合で見出しの違いをつけ、子どもたちが目標を意識しながら取り組める点が良いと思います。
山本教育長職務代理者	東京書籍ですが、英語で世界とつながるということで、世界の様々な問題を扱っているというところが、非常に画期的だなと思いました。1年生では、国際支援を行い、2年では世界遺産とかユニバーサルデザイン、3年では外国人への支援、特に災害時における外国人への支援。それから絶滅危惧動物についてということで、非常に社会的な問題を含めて、世界とつながろうという意図がよくわかる教科書だと思いました。あと各ユニットでは、Unit Questionが設けられて、そこから導入して、ゴールを確認して、自分がどこまでできたのだろうかというチェックをするという、これはどこの出版会社でもよく見た取り組みというか構図を持っているのですが、それ

(山本教育長職務代理者)	が非常にわかりやすい構造になっていたかなと思います。 中学校1年生では、小学校との連携ということで、ユニットを0から4までEnjoy Communicationということで、されています。これについては、学校意見書の中には、扱っている部分が過去形のみになっている傾向で、もう少し幅広い扱いをしてくれた方がという意見もありましたけれども、小学校との連携ということで、0から4ユニットまで出して扱われているのはすごく生徒たちの学びをサポートする意味では、非常にいい構想だなと思いました。 1点、学校意見書では、1年生のフォントは小さいという、そういう指摘もありましたので確かに他社と比較をさせていただきますと、ちょっとフォントが小さいかなというのは、私も感じたところです。 開隆堂出版につきましては、日常生活から文化的な内容まで様々な場面で英語を使うということで、生きたコミュニケーションといいますか、それを意図した教科書だと思います。それぞれ導入、本文、それから表現活動を行って、最後は、Our Projectということで、学期末ごとにまとめをするということでそういう共同作業があって、この部分もよく考えられているところだなという印象を持っていました。 三省堂につきましては、学校生活から地域社会に広がるという部分を、創意性を持って、作っておられるというところで、中学生の好奇心にあった題材をとりあげておられますので、その部分については、よく考えられているという印象です。1年生で非常識を、2年生で環境平和、3年生で公平を扱うというところで、こういうところも非常に特色があると思いました。 あと1年生のStarterというところで、小中連携を18ページにわたって意識をしてとりあげられていますので、この部分についても、非常に良かったかなと思っています。 それから教育出版ですが、年間のチャレンジ目標があって、ふり返りCan-Do自己チェックリストになっているのですが、そういうパターンで、すべてのレッスンをされていますので、とっつきやすいかなとは思いました。例えば3年の年間目標の例では、スポーツ選手にインタビューしたり、それから英語の歌をとりあげたりというようにはなっていますが、この英語の歌については、本文にも触れられておられないというところがあって、ちょっと違和感を持ったのも事実です。それからFurther Readingということで、将来に渡って関心と呼ぶような取り組みというのも、良い取り組みであると思いました。 光村図書につきましては、学年ごとにテーマがあって、これは非常に意識的で良いと思います。そのテーマの中にも、1年は自分のことであって、日常生活です。 2年生は自分と、日本、地域と日本文化、3年生ではこれまでの自分と、社会的な問題ということで、この意識的な学年目標というのは、素晴らしいな
---------------------	---

(山本教育長職務代理者)	と思いました。題材についても、身近な学校生活を取り扱って中学生に親しみやすいストーリー、例えばクラス討論しているところでのいろんな考えとか、そういう部分があって、これも子どもたちが、とっつきやすい教科書だなという印象を持ちました。 啓林館については、Let's Start!というのが小中連携で6ページあります。あと、Let's Talk!でペア学習もしていますし、Let's Write!で各学年、2つで電子メールを取り上げて、買い方の練習をするとか、そういうような部分もありましたので、これについても、いろいろと考えられた取り組みだと思います。ただ1点、学校意見書の方では、1年生で否定文を取り扱うことの是非について論じている学校もありましたので、その部分については課題かなと思っています。
山本教育長職務代理者	それでは、皆様のご意見をまとめます。 基礎基本の4技能5領域を総合的に高める構成、身近な学校生活や日常生活から英語で、地域社会や世界と繋がるテーマの設定、何よりも英語をしっかり使うことに興味関心を持つ工夫などの観点から、次の3社が相応しいと思います。開隆堂出版、三省堂、そして光村図書です。 本市により相応しい教科書をこの3社の中から選定したいと思いますがいかがでしょうか。 (「異議なし」の声)
山本教育長職務代理者	それでは3社に関しまして、さらに意見がありましたらお願いします。
佃委員	私は開隆堂出版さんのOur Projectという活動がとても良いと思っておりまして、これは3年間で8箇所あるのですが、身近な話題から世界的な話題まで目標を明確にして、バックワードデザインで学べるようになっており、総合的な力がつけられる活動と思っています。学校意見書でも、デジタル世代に合わせた内容の教材も多く、SNSなどで使われる学校もあると評価されております。また、巻末にCAN-DOリストがありますので、Small Talk表現集なども使いやすいと思います。 光村図書では、ストーリーテリングについて、絵だけではなくて、語句も記載されているので、それを活用して自分の言葉で協力するという点では、英語が苦手な子どもたちも使いやすいのではないかなと思いました。Let's Talk!では、即興のスピーキングができるように、ユニットで学んだ問かけが並んでいて、これは提案活動やグループ活動でも使え、下にあるアクションのヒントで長く会話を続けられるような工夫がされていました。学校意見書でも、Let's Read!ではBefore You Read

(佃委員)	があり、内容を予想したり、生徒が自分事として考えやすくなっていると評価されていました。
河田委員	開隆堂出版についてですが、1年生の教科書に、3年生までの到達目標が掲載されていて、3年間の見通しを立てて学習に取り組める点が良いと思いました。 光村図書の教科書についてですが、学校生活の話題や気持ちの表現などの題材は、キャラクターと同世代の子どもたちにとって、自分のことに置き換えて考えやすいので、より実践的な英語の習得が期待できるのではないかと思います。
山本教育長職務代理者	私の方から3社について意見を述べます。 開隆堂出版につきましては、何度も先ほどから出ていますが、R e t e l 1で非常に扱いやすい。内容的にもうわかりやすく、考えやすい。今回からヒントが少し増えたということもありますので、その部分がやりやすくなっているかなと思います。このヒントについては、意見がやっぱり分かれるところですので、あることによってやりやすいという部分と、もう少し子どもたちに考えさせてもいいのではないかという、そういう部分がありました。学校意見書の内容です。それからそのあとA c t i o nがあつて、このA c t i o nの内容が非常に豊富です。だから非常に専門性にも富んでいるというところがこういうところに理由があるかなとは思っています。 巻末資料の、単語と熟語があるのですが、よくまとめられていると思いますが、これらを他社に比べて見にくい子どもがいるのではないかなという、そういう指摘が学校意見書の方からもあがっています。もう1点、意見書の方で出ていました意見が、登場人物が白人と日本人がほとんどだという、そういう指摘がありました。 それから三省堂ですが、資料に基本本文のまとめを書かれています。これについては非常によくまとまっているが、やや小さいのではないかと感じます。実際読んでみますと確かに他社と比べてすごく小さくて、これは読めない生徒が出てくるのかなというような気がいたしました。また三省堂は情報量がすごく多くて、この部分については、子どもたちがいろんな可能性を広げていくためには、非常に良い教科書だなという印象を持っています。 光村出版ですが、先ほどちょっと言いましたけれども中学生が身近なテーマで扱うということがありまして、その中にモデルとなるような会話も入っていますので、非常に使いやすいという部分があったかと思います。あと冒頭で、中学校への導入、これは、から始まりまして、アルファベットの確認までしていますので、こういう点は、ちょっと英語が不得意な子どもたちには使いやすい教科書かなと思いました。 それから自分の意見を表現するのに適していますし、最後のL e t ' s T

(山本教育長職務代理者)	a l k ! のところの巻末ですけれども、8 ページありますが、私の考えをまとめて話すことができる教材としては使いやすいかなと思います。ただ光村図書だけは英語に関しましては、変形版の A B 版ですので、他社を選定していった中で唯一、光村図書の分が変形版の A B 版になっていくというところで、その部分は、ちょっと気にする方もおられたことは、おられました。
山本教育長職務代理者	それでは、今までの意見をまとめて、採択をしたいと思います。 生徒同士の話し合いを通じてコミュニケーション能力を高める工夫、英語学習の意義や学び方の工夫、何よりも本市の子ども達にとっての情報量や難易度の適切さなどの観点から、光村図書が相応しいと思われます。光村図書を採択することに決定してよろしいですか。 (「異議なし」の声)
山本教育長職務代理者	異議なしと認め、英語の教科書は光村図書の教科書を採択することとします。 続いて道徳についてお願いします。答申の 2 2、2 3 ページをご覧ください。選定委員会から説明をお願いします。
鉄選定委員長	まず、東京書籍につきましては、S N S など現代的な課題について取扱い、生徒にとって身近なことを紹介し、考えを深めやすくなるように工夫されています。 次に、教育出版につきましては、やってみようでは前述の教材を通して学習したことを体験的な活動として位置づけ、より内容を深められるよう工夫がされています。 次に、光村図書出版につきましては、チャレンジ、演じてみようでは、体験的な活動が示されており、道徳的価値にせまる学習に適しています。 次に、日本文教出版につきましては、教材の結びに、考えてみよう、自分にプラスワンがあり、学びを広め深められるようよく工夫されています。 次に、学研につきましては、S D G s、多様性、キャリア教育などユニット形式の学習が各学年に配置され、系統立てて学ぶことができるよう工夫されています。 次に、あかつき教育図書につきましては、教材の始めに問いを示さず、子どもたちに多面的、多角的に考えさせるのによく適しています。 最後に、日本教科書につきましては、教材の最後に、考えよう、深めようの記載があり、視点を示すことで考えを深めることに適しています。
山本教育長職務代理者	道徳は 7 社です。このことについてご意見をいただきたいと思います。

佃委員	道徳につきまして、各社とも四つの視点でバランスよく組織・配列されていきました。また、教材の最後に設問例を設定して理解が深まったり、議論がしやすくなるように配慮されていました。 まず、東京書籍では、最初に見開きページで、道徳科とは、とあって、道徳科の時間とは、生き方を考える時間と示し、気づく、考える、深める、広げるという流れで進むキーワードで、こんな時間にしよう、と提示しているのがわかりやすいと思いました。また、思ったことをメモできるつぶやき欄は気が利いているなと思いました。 次に、教育出版です。さあ、道徳を始めよう、で、問題に気づく、考え、話し合う、深める、つなぐと流れが示され、考え、話し合うでは、話し合いのポイントが具体的に示されていて、うなずき方や質問の仕方など説明してあって、とてもわかりやすいと思いました。 光村図書では、道徳の学習を始めようで答えは一つではない。自分と向き合い、他者と向き合うなど、3つのポイントを示して、道徳で大切にしたいことも、自分に問う、友達と問い合う、生き方を問う、と段階的に示し、とてもわかりやすいと思いました。 日本文教出版では、道徳科の学びを始めよう！、で、気づく、考える・議論する・深める、見つめる・生かすとあって、学びのキーワードが冒頭で示されていて、内容項目をさりげなく意識させる仕掛けになっていました。さらに、今回際立ったのは、いじめと向き合うというユニットです。3年間をとおし、様々な教材やコラムをとおし、いじめについて考え、知識を深めながらも傾聴など、スキルが身につく工夫がされていて、とても良いと思いました。 学研では、考えを深める4つのステップで見つけよう、考えよう、話し合おう、生き方につなげよう、で示され、さらに深めようのページで4つのステップの具体例が提示され、授業者は使いやすいなと思いました。また、パソコンやタブレットを活用しようと、ICT活用を進めている点もよかったです。最重点テーマでは、命の教育とされているように、生命尊重については、各学年で3つずつ教材が配置され、また他の教材でも関連して学べるような工夫がありました。同様にいじめについても多くの教材を配置し、生徒に人気のコミック、青のオーケストラの一場面を活用するなど、身近に生徒が考える工夫がされていました。 あかつき教育図書では、道徳の時間は「自分を見つめ、考え、生きる」時間とし、生徒がニュートラルに教材に出会えるよう、教材の始めには、あえて内容項目の視点のみ掲載していました。質の高い教材がそろっていて、授業者がかなり練らなければ、中心発問にたどり着けず、単なる作品の読み取りになってしまうというところが危惧するところですが、授業者が一生懸命考えるなら、力のつく教科書だと思いました。 日本教科書は自分が生き生きと過ごすのに何が大切かを考える26枚ウェ
------------	---

(佃委員) 河田委員 山本教育長職務代理者	ルビーイングカードが大変面白いなと思いました。 始めに、東京書籍です。いじめ問題や情報モラル、多様性など、5つの現代的課題について、イラストや漫画を用いて、子どもたちが自分のこととしてとらえやすい例を紹介し、物事を多面的、多角的に考えられる工夫をしている点や、子どもたちが親しみやすいコラムを多くとりあげ、教材と関連した課題について、深く広く考えられる工夫がなされている点が良いと思いました。 次に、光村図書です。いじめ問題や情報モラル、世界の中の日本など、6つの課題について、漫画やイラスト、写真を用いて内容を紹介し、子どもたち自身の課題としてとらえやすい構成になっていました。また、より良い生き方について4つのアプローチから考えていくことが挙げられ、実際に演じて考える活動を取り入れるなど、理解が深まりやすい工夫がありました。 次に日本文教出版です。ユニット、いじめと向き合うを1年生では3箇所、2・3年生では2箇所、長期休み明けの時期に配置してあり、他社と比較して、いじめについて大きく扱っている点が特徴的でした。ユニット「よりよい社会を考える」では、自立と共生、環境と未来の二つのテーマで、多様性の尊重やSDGsなど、よりよい社会の実現について、多面的、多角的に学べるようになっていきます。学習の記録は、別冊の道徳ノートに記入することができ、発問がないため、子どもたちが主体的に物事を考えられ、より多くの気づきが生まれ、多様な考えの理解にも繋がるのではないかと思います。 まず、東京書籍ですが、生き方を考える時間ということで、佃委員も言われたように、非常によくまとまった教科書だと思います。1時間の流れの中で学習のテーマがあって、一コマ漫画が学年に5つぐらいあって、そういうところで、子どもたちの関心をひくという部分があって、そのあと考えようとなっていますので、子どもたちは非常にとっつきやすいかなと思います。もちろん現代的な課題については非常に意識的に、いじめ、生命の尊さ、情報モラル、SDGs、多様性ととりあげていますので、子どもたちもずっと入っていけるのではないかなと思っています。 特にいじめにつきましては、いじめの構造の、これは三層だと思いますけどもその後三層の行動にまで触れていますので、そういう点は詳しく触れているのは、東京書籍だけだったかなと思いますので、これから子どもたちが生きていく上では、相応しい教科書かなとは思いました。定番の教材がすごく多くて、そういう意味でいうと、きっちりとしたテーマを押さえることのできる教科書かなと思います。 教育出版は、生き方を問うテーマがすごく多かったという印象です。それで学びのみちしるべというところで、3つの問いが非常に構造的になっており、これは多くのところは2つで終わっているのですが、最後に3つめの問
--	---

(山本教育長職務代理者)

いを作ることによって、子どもたちが考えやすいようにしているなという印象を持ちました。1時間の流れは他社ともあまり変わりませんけれども、問いかけでみちしるべでやってみようという形で始まっています。ただ、ややもすると、結論まで導かれてしまうような部分があって、是非があるのですが、単元によっては、こういうふうにしなければならないというような導入になっている単元がありますので、1年生のルールの部分であるとか、そういうところがちょっと気になるところです。それから、情報モラルについて、触れている部分が少し少なかったという、そういう印象を持っています。ただ具体的な技術であるとか、人物に焦点を合わせていますので、フィクションではなくて、きっちりと子どもたちが、技術として認識できるというところが非常に優れていたなという印象です。

光村図書ですが、これは考えさせるということが中心になっていますので、考えていくというところで、特にいじめを許さない心について考えるということで、各学年でいじめについて考えているという部分、それから情報モラルについても、きっちりと各学年でそれぞれ3単元のユニットがありますので、そういうところで考えられるかなと思いました。各学年に1テーマを与えて、演じて考えよう、問いを立てようというところで、学びを進化させている点も良かったと思います。

日本文教出版ですが、これはいじめと向き合う、それと多様性というテーマを中心にされている教科書かなと思います。いじめと向き合うというユニットが各学期でありますので、すごく考えやすいし子どもたちもいじめについての考えを深めていくことができるかなと思いました。それから学年で1年生はであう、2年生はあつめる、3年生はひらくということで、3年間で自分に出会う人との関係を見つめようということで、非常に系統的になっている部分が、子どもたちがこれからの人生を開いていくという点では、素晴らしい教科書かなと思いました。

学研は、様々なテーマがあって、1年生で13テーマ、2年生3年生は14テーマということで、すごく多いテーマの中で、様々なことを子どもたちに学ばせている教科書だと思います。いじめについても結構な単元をされていて1年で6単元、3年で5単元というような単元をされていますので、特に、スポーツを無理にさせられたいじめの問題とか、そういう他ではあんまり触れていないようなテーマにも触れていますので、そうそういう点は良かったかなと思います。

あかつき教育図書は、同学年にもいじめ、情報モデル、共生社会、キャリアとかいうのがあって、3年間の学びが非常に系統的になっています。それで発問は2つで、自分を見つめて考える、いろいろな見方で考えるということ。それから、自分の考えを深めるという2点で、多くの考えをあげさせて、自分で考えていくということで、教科書としては、先ほど佃委員も言われたように、質の高い教科書であって、授業者が上手く使えるかという部分の不

(山本教育長職務代理者)	安も含みますが、教科書の内容としては優れた教科書だなという印象を持ちました。 最後、日本教科書は、先ほど佃委員が言われたように、26枚のウェルビーイングカードがあるのですが、これはグループでの話し合いに使うということで、本当にうまく考えられた発想だと思うのですが、ちょっと現実問題として、使うことが可能なのかなというようなことについては、ちょっと疑問を感じたこともあります。日本教科書は8テーマにわたって書かれていて、テーマごとに関連性をきっちりしていけないといけないと思うのですが、テーマごとの関連がちょっと深まっておられないような感じを持ってバラバラになっているような印象をもったユニットもありましたので、そこらあたりはさらに工夫がいるかなと思いました。
山本教育長職務代理者	それでは、いただいた皆様のご意見をまとめたいと思います。 いじめは本市でも大きな課題になっています。人権尊重の継続的な学びが可能な点、現代的な課題についてバランスよく学べることのできる工夫、自分を見つめ、学習をふり返り、自己の道徳的価値を深めていく観点、こういう点から、次の二社が本市には相応しいかなと考えています。東京書籍と日本文教出版です。この2社から本市により相応しい教科書を選定したいと考えますが、いかがでしょうか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	それでは、この2社に関しまして、さらにご意見がありましたらお願いします。
佃委員	東京書籍では、以前に比べてオーソドックスな教材がたくさん扱われるようになったと感じました。それによって生き方を深く考えることができると思います。また3年生の教材で、自分をアップデート、では、ユーチューバーHIKAKINが登場して、動画クリエイターとして生きていく決意が描かれていて、こういったものも生徒たちの心をとらえる教材だと思いました。 日本文教出版では、唯一ある道徳ノートなのですが、これをこれまで使ってこられて、中学校では担任の先生方だけではなくて、いろいろな先生方が授業をするので、ノートの扱いが少し難しいといったご意見もお聞きしましたけれども、今回から東京書籍の方では、デジタルノートも作られたので、生徒のタブレットから手書きのワークシートに記入されても、OCRサービスがあるので、その点がデジタル化されて、さらに一覧表に流すとかっていったような工夫もできるようですので、解消されるのかなと思いました。また、前回話題になっておりました発問の固定化につきましても、すべての教材で、発問のところが空欄になったというところで、先生方も自由に活用で

(佃委員)	きるのは、とても良くなったと思いました。これは学校意見書の方でも、別冊ノートの発問が空欄になって、自由に設定して良いという意見がございました。さらに、日本文教出版では、先ほど職務代理から多様性のお話もありましたけれども、1年生のお互いを認め合うためには、多様性についてとりわけジェンダーの問題を扱っていて、カミングアウトを受けたときの心構えまで触れられていて、中学1年生のこの時期に学べるのはとても良いと思いました。また、教科書の端にあるQRコンテンツにアクセスできて、あすへのメッセージなど、教材の主人公からのメッセージ動画が見られるというのも、迫力があっていいと思います。また、QRコンテンツにある道具箱には、道徳の授業で使いたいワークシートや、心情メーター、シンキングツール等がそろっていて、先生が授業を深めることができると思いました。
河田委員	日本文教出版についてですが、いじめ問題は、子ども一人一人が自分のこととして考えなくてはならない重要な課題の一つだと思います。日本文教出版の教科書では、いじめに関するユニットが1年間に複数回配置され、いじめの未然防止につながる学習ができる点が良いと思いました。
山本教育長職務代理者	日本文教出版ですが、先ほど佃委員からもありましたように、道徳ノートですが、これについては、是非はあるかと思いますが、私は個別最適な学び、あるいは協働的な学びをするうえで、非常に有効なノートだなと感じています。同じように、デジタル活用ができるようになっていきますし、その中では、本文と同じ活用ができますし、発問例は空欄ですけれども、アイコンを開くことによって、ある程度のヒント得ることができますので、それは使い方の問題と思っています。 東京書籍ですが、最初に言いましたように、実際にいろんな起こった問題提起から、取り扱いやすいような形になっています。それで、何点か学校意見書にはあったのですが、本文のつぶやき、メモ記入欄があるのですが、これは多分、日本文教出版の道徳ノートに相当する内容かなと思いますが、ややこのメモの記入欄が小さすぎるのではないかなという指摘があって、書きにくいという子どももいるのではないかなというような指摘がありました。 それからいじめのない世界へのちを考えるとという3単元でユニットを作っているのですが、もう私が見た感じでちょっとユニットにするのなら、考えをまとまっているところが、どういう観点でまとめたのかなというのはちょっとわかりにくいユニットがありました。 それからP l u sのある教材が2年生にあります、8ページあります。果たしてこれが1時間の中で可能なのかなというのは、P l u sで、さらに追加をしなければなりませんので、そういうところの危惧を少し覚えました。小学校での教材を採用しているとか、そういう意図的な部分があって、すごく良い教科書ではあるのですが、そういう課題を感じました。

(山本教育長職務代理者)	最後、東京書籍と日本文教出版のちょっと違いを申し上げますと、3年生で2通の手紙というのがあります。そのテーマは、規則を守ることなのです。発問につきまして、東京書籍の発問は、社会の中で規則や決まりを守ることが大切なのはどうしてだろう、という発問になっています。全く同じ発問が、日本文教出版では、法やきまりのいいとは何か考えたことをまとめよう、というようになっています。私はこの発問の2つ例を出したのですが、これが道徳の大事さを端的に語っているのではないかと考えています。
山本教育長職務代理者	それでは、皆さんのご意見をまとめますと、人間としての生き方を深め、いじめと向き合う生徒の育成という観点、現代的な学びについて系統的に学べる工夫、そして何よりも自分の学びをふり返り、深める取り組みなど、そういった観点から、日本文教出版がより相応しいと思われませんが、日本文教出版を採択することと決定してよろしいですか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	異議なしと認め、道徳の教科書は日本文教出版の教科書を採択することといたします。 これで中学校における教科書の採択は終了しました。ここで改めて採択の結果を発表させていただきますが、その前に何かご意見はございませんか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	ないようですので、中学校の採択結果を発表します。 国語につきましては、光村図書出版株式会社の教科書を採択いたします。書写につきましては光村図書出版株式会社です。 社会地理的分野については、日本文教出版株式会社です。 社会歴史的分野については、日本文教出版株式会社です。 社会公民的分野については、日本文教出版株式会社です。 地図については、株式会社帝国書院です。 数学については、株式会社新興出版社啓林館です。 理科については、株式会社新興出版社啓林館です。 音楽一般については、株式会社教育芸術社です。 音楽器楽合奏については、株式会社教育芸術社です。 美術については、光村図書出版株式会社です。 保健体育については、東京書籍株式会社です。 技術・家庭（技術分野）については、開隆堂出版株式会社です。 技術・家庭（家庭分野）については、東京書籍株式会社です。 英語については、光村図書出版株式会社です。

(山本教育長職務代理者)	道徳については、日本文教出版株式会社です。 以上が、中学校の採択結果ですが、皆さんご異議はございませんか。 (「異議なし」 の声)
山本教育長職務代理者	異議がないようですので、以上で議案第 17 号、令和 7 年度使用四條畷市立中学校教科用図書採択についての審議を終了します。 本日以降、事務局の方から大阪府教育委員会に対して報告を上げていただきます。 それでは次に移る前に、尾崎委員が会議に出席されますので、暫時休憩いたします。 (休 憩)
山本教育長職務代理者	休憩を閉じまして、会議を再開します。 次に移ります。追加議題としまして、報告第 12 号 令和 6 年度教育委員会事務局職員人事についてを議題といたします。 事務局から本件の内容説明を願います。
古市教育総務課長	報告第 12 号 令和 6 年度教育委員会事務局職員人事についてでございます。こちら報告第 12 号 令和 6 年度、教育委員会事務局、職員人事について、教育長に対する事務委任規則第 2 条第 2 項の規定により、特に緊急を要するため、会議を招集する時間的余裕がなかったため、教育長をして臨時代理いたしましたので、同規則同条第 3 項の規定により、その内容を報告いたします。令和 6 年 8 月 1 日付けの人事異動の詳細につきましては、配布資料の通りでございます。
山本教育長職務代理者	それではその他の案件に移ります。事務局お願いします。
古市教育総務課長	教育総務課より 1 点、報告いたします。 公共施設再編のたたき台バージョンⅡの内容を元に、市議会にて四條畷市公共施設再編に関する調査研究特別委員会にて審議が行われ、7 月 23 日の第 3 回の委員会をもって審議が終了いたしました。 特別委員会での審議内容を踏まえ、そのたたき台バージョンⅡの内容が最終的に固まり次第、施設創生課より個別施設計画【公共施設】の改訂作業を進める予定であり、改訂の流れとしては、年内に意見公募手続き（パブリックコメント）を実施のうえ、令和 7 年 1 月に改訂される予定であると聞き及んでおります。

(古市教育総務課長)	教育委員会といたしましては、今後整備を控える学校施設について整備の方針を定めました学校施設整備方針の中で、個別施設計画【公共施設】との整合、相互補完が位置付けられていますことから、再改訂を行うことを検討いたしたく思っております。詳細につきましては、来月の開催予定でございます総合教育会議、また定例会を通じ、委員の皆様説明のうえ、意見交換の場を設定いたしたく思いますので何卒よろしくお願いをいたします。
山本教育長職務代理者	何かご質問等ございますか。
尾崎委員	ニュース等見ておりますと、全国的にコロナ感染がまた流行りつつあると聞いております。7月度の感染症インフルエンザ、コロナ等の動向について、お教えてください。
花岡学校教育部長兼学校教育課長	詳細の数まで今すぐ申し上げる状況ではないのですが、若干名は学校の方でもコロナ感染が出ているところでございます。ただ学級閉鎖に至るところまでは報告は受けておりません。
山本教育長職務代理者	それでは本日予定の案件の審議はすべて終了しました。 これを持ちまして、定例会を閉会いたします。 どうもありがとうございました。

上記会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和7年5月29日

四條畷市教育委員会教育長職務代理者 山本 博資

四條畷市教育委員会委員 河田 文